

市島春城貼込帖



14

1919

835

何かの
まにも
應じ得
くし。

昭和5年
官川貞二氏
贈



拔萃帖に題す

(第七稿ノ二)

蒐集の事たる、本来個人の趣味に基く道楽とはいへ、之を人に示して人の参考とも爲り、世に残して世の資料とも成るに於ては、人を利して他と和し、世を益して衆と樂む所以の道である。此の意義に於て蒐集(の)は、實に公共的性質を帯ぶる遠大の事業で、中にも文獻に關するものは、頗る重要なものに屬する。禍も三年経てば役に立つといふ。況して其選り抜かれたる資料や、就中必要な文獻に於てをや。蓋し文獻は、人文啓蒙の最大要素、萬古の精華。古語に曰、「文章は經國の大業、不朽の盛事」と。而して文獻中、日刊新聞の如きは、本質上、短き月日に容積嵩み、其保存や檢索にも困難を感ずる故、豫て此中より、有要な分を切貼り整理し置く事は、頗る必要な事、此くする事に於て、他日何かの必要ある場合、時間や、努力や時には費用をも徒らに費する事なく、直に其切要にも應じ得られて、記憶を喚び起し、知識を明晰にし、印象をも深うするの效果あるべし。

此くて春秋幾星霜の後は、據て以て遷り變りの跡を辿るの葉とも成り、今昔を照り合はし研究するの便(に)とも爲り、中には曩に平凡なりし物事も、後には大に珍奇の感興を惹き起すものもあらう。殊に星移り物換る事の愈々久しきに及ばず、其の蒐集物は、實に貴重な史料と成るに至らう。想へば世故幾變遷、飛鳥の川の淵潮も期し難く、思ひがけなき災厄にも襲はるゝ事もあるべくして、其間漸次品種(の)の散逸や消滅、時には湮滅(の)する虞も免れ難いのである。蒐集の事、豈に忽せにすべけんやであるが、之に對し保存の道、亦心がけねばならぬ。

古來我が日の本は、「言靈の幸ふ國」と稱へ、又「言擧げせぬ國」と傳へ來て、古代の事は、文獻の徵すべきもの至つて少なく、史實の定かならぬも多く、後人をして轉た茫洋の感に打たさしめ、爲めに考古學上、其探査や考證に悩まされ、又其傍證や確否・眞偽等の判斷にも苦められて、徒に多大の勞費と時間とを消耗せしめつゝ、尙且つ其效果の疑はしいものがある。

若し我が秀眞の國が、古より言擧げもして、文獻上の貢獻や蒐集にも努め來りしならば、どの位善く吾が皇御國の教育が行届き、夙に人文の花を咲かし、實をも結ばせて、思想界をも賑はし、技術界をも盛んにし、進んで外邦文物の上にも、寄與した事も、随分あつたであらうに。

▲因みに、言靈の國名は我が大和言葉の靈妙圓活なのに、外人が驚嘆して、讀へし美稱といふ。▲又言擧げせぬてふ事に就ては、數多の要因あるべきも、今之を略す。

を兎に角、此の言擧げせぬてふ事は、名詮(の)自稱の然らしむる所?、自ら歴史上の出來事で、傳はるべきもので傳はらぬものも、多くあらう事と察せられ、一方又、(文字の用を知りし後)自ら文筆に疎かとなれるものか、其結果、史實の重要なもので、近古尙且つ其記録の存せぬものが多くある。(其の例略す)。

併し時時迄か、三猿の一の墨守を續け、蓬萊洲根(の)に、桃源華胥の夢を結ぶ事を久うすべけんや。固き當も春し來れば、自らほ、笑み開くが如く、言擧げせざりし大八洲は、果然海外より打寄する文物の潮の音づれに、ゆくりなくも目覺むるに到るや、爾來言擧げもして、文獻に盡す事となり、上下千數百年、その間一張一弛ありたりとはいへ、年所と共に、外面(の)の潮の高調するに連れ、我が大和民族が揮ひ示す手際の鮮かさは、豫て久しく鈍(の)の中に、涵養蓄積し置くの精英の發露せるものかと思はしめて、歳華の進むに従ひ、益々言葉の花を咲き匂はすに到り、漸次國運の進展を來し、殊に近世に及ぶや、其の榮行く様、實に目覺ましきものありて存し、就中近年に至りては、工業的各方面に學術的各部门に、範を外邦に示せる例も尠からぬ。それ此くの如く言擧げもする文獻の事業が、如何に國運の開展に、社會の進展に寄與する事の著大なるを知らば、亦以て其蒐集の事業が、如何に重要なを推しし聯想もし得られよう。國家は宜しく蒐集家を保護して然るべきものと思ふ。

拙て蒐集する中には其間、彼此取材上の異動も起りて、多少取捨する所あるべきも、漸次その範圍の廣まり、資料の蓄むに至るは、自然の勢であるが、之と共に大に切要な事は、其整理と檢索の方法の、便宜と完全ならん事である。然るに坊間とは思はしいものがないので、久しい前から然るべきものと、夙に考案せしものに、今回多少の工夫を廻らし、意匠を凝らし、發兌(の)したものは、此の「拔萃帖」。

梅の花芳ばしみを吐くの好季節
帝都に春光浥む面影橋の邊りにて

昭和九年甲戌 二、三月の交 編著者 艸す

◎ 新いろは歌

いろは にほひつ ちりくれど たねを のこして ゆめならぬ
色は にほひつ 散來れ 残 ぬ
むべ うのやまも わせおきる さかえん みよぞ すまあふげ
宜 有爲山 早成起 榮 街代 末仰

沈重に丁寧に、折目や切り方も正しく、形や貼りも整へ、通則としての心得見落さないやうに、確かりと百数も付け、書入れも丁寧に、

新聞切抜に關する各注意事項 (第四稿ノ三)

新聞等切抜の豫備的行為として、必要な事は、
一、先づ題號の頭には朱丸、題號には朱線を施す事、其記事の長いもの、又は別欄に跨るものには、其結末に「L」形の朱線。此くすれば目立ちもし、見落しを防ぎ且つ興味も惹き易い。尙此の朱線は、所要分付後の通覽に、便宜な目標にもなる。又此朱丸は、記事等の貼附後、其中に追次番號を記入する爲めでもあつて、整頓もして見える。而して朱丸を記すには廢筆の軸を用ひても宜しいので、其大小は、宜しく題號の活字の大小に従ふて、適當に加減すべきである。
二、次に題號の餘白に、誤りないやう、年號月日並出所として新聞名等(略にて可)を記す事が必要。而して日時等の記し方は、次の方法に依るのが、便宜・簡明。即ち昭和九年三月二十一日(名)を 昭九三二(名)とするが如き例、是れである。(其他類推)
之れには本社の考案に基く「曆事計數新聞名等練出しゴム印」を使用すれば、右便で能率も上がり、奇麗にも見える。但し數字の種別は、組合はす關係の都合上、右のとは正反對になつて居る。即ち和漢數字の所へはアラビア數字(本來は印度數字)、算用數字(アラビア數字)の所には、和漢數字を充て、各々相入違ひにしてある。
三、曆日等の外、成るべく頁數をも書入れた方が好い。別けて頁數の多い新聞には、前項に附記せる本誌の備品等練出し(輪轉式)ゴム印には、頁數をも捺し出される。
四、切抜きする時の備品。(イ)錠(成るべく手巾の又渡りの長いものを)、(ロ)小刀又はナイフを用ひるには、(ハ)定規又は三角定規、(ニ)下敷用の板紙(表面の平滑な茶ボールが宜い)、(ホ)筒(シ)小刷毛(又は秀筆を能く洗ひ清めたもの)、(ツ)糊(濃いのと薄いのと)、(チ)なるべく薄くして強い日本紙、(リ)少し濡めた手巾。而して多數新聞の時に、小刀を用ひる場合には、(ク)小磁石(中磁と仕上紙)其他(ト)糊の臺紙、(モ)仕分け箱。

以上の備品(子)迄は、之を盆又は箱に載せて置けば、整頓上取扱上にも便宜である。▲附記 糊を指し付ける場合には、小指が宜い。實際上小指の方が使ひ易い。人差指では事務上その指頭が糊が、他の品物に觸れ易いので宜しくない。
糊の乾き易くは、平常之を使はぬ間は、宜しく伏せて置く。此くすれば、濕りや保ち易く、又普通之を使はぬ間は、清浄の効果を、ペンをして(インキの染まり)に能く其先を拭ひ耐久力を久しからしめ、一本も數本の效能あらしめる。殊に雨季又は夏季に於ては、
三、曆日等の外、成るべく頁數をも書入れた方が好い。別けて頁數の多い新聞には、前項に附記せる本誌の備品等練出し(輪轉式)ゴム印には、頁數をも捺し出される。
四、切抜きする時の備品。(イ)錠(成るべく手巾の又渡りの長いものを)、(ロ)小刀又はナイフを用ひるには、(ハ)定規又は三角定規、(ニ)下敷用の板紙(表面の平滑な茶ボールが宜い)、(ホ)筒(シ)小刷毛(又は秀筆を能く洗ひ清めたもの)、(ツ)糊(濃いのと薄いのと)、(チ)なるべく薄くして強い日本紙、(リ)少し濡めた手巾。而して多數新聞の時に、小刀を用ひる場合には、(ク)小磁石(中磁と仕上紙)其他(ト)糊の臺紙、(モ)仕分け箱。

文獻修養に關する格言語録

(和)とあるは、和語の略
新五十音行(アカラタマ(明珠)の順に據る)

朝な夕な文の林を辿りつゝ、千ぐさの花の種をしぞ拾ふ誤り傳へざらんとするには、其事物の名實、時位、地理、容相(形・色・音等)、本質(外容・内含・特徴等)の各要綱に基きて、其由縁、結果、表裏、關係、影響、程度(大小・多少・長短・淺深・精粗・強弱・緩急・明暗等)の諸點を、簡明正視して、其官能や聰明に、其態度や公平無私に、其表現(言文)形容等や妥當適切なるを要す。尙未熟なり、其原因(修養)古の傳はる根柢しあればこそ、開け行世の基ともなれ古に推し今に驗するは、惑はざる所以なり(素書)。
古に鑑み、今に照らし、中正に基むる、常道を行く。
怒り易きは五つ(の)のしき弱點を有す。即ち雅量乏し、智慮乏し、理解乏し、膽識乏し、忍耐乏し、是也。
運・根・鈍の鈍は單なる鈍に非ず、信念力の強固を意味す。魚は餌に集まり人は利に走る。修養には、宜しく讀書、自省を以て何とし、直言・多聞を以て利とすべし。
益者三友、直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とす(論語)永字八法。問架結構八十四法又九十二法(書道にいふ)。
様の下の力持ちは、是れ陰徳に近き者。
恩を知るは大徳の本にして、善業を開く(初門也(大智度論))恩を知るは禽獸に等し(同上)。▲禽獸何れ恩を知る者あり。知つて之れに報ゆるの實例あり。然るに人にして、禽獸にも劣る取つべき行爲を爲す者あり。甚きは恩に仇を以てする人面鬼あり(香菴の修養)。
心すかしも(枕の草紙卷九文中の意を附めて)。
己を空うして、人の我に教ふるを聽く(司馬溫公)。
老ゆるに従ひ、思想豊かみ、思索に通ずるの樂みは、到底若き時に味ひ得ざりし絶大至妙の愉快に屬す。
行 力
學を好むは知に近く、力め行ふは仁に近く、恥を知るは勇に近し(論語)。○學術工藝は多く是れ古人智能の遺産。學は是徳を修む、徳ありて後、言あり(近思錄)。

學は疑ある貴ぶ。大に疑へば大に進む云々(金針)
鏡は物影を映すも遠く文字は事物を寫して後に傳ふ。氣の清きを神と爲し、人の清きを賢と爲す(李園)。
時する、必ずしも通せず。故に窮せざるに先だち、窮する時に處するの道を、豫め講ずべし。
國を經(る)は、家を治むるは、文より善きはなく、身を立てて、名を揚ぐるは、學より善きはなし(日本後記卷二十二)。
外物の味、久ければ則ち厭ふべし。讀書の味、愈々久しければ愈々深し。而して厭ふ事を知らざるなり(河崎敬軒)。
觀察の道に通ずるには、苦學(の)の觀察としての六大觀察中、少くも四大觀察(大・達・通・精)に通ざる可らず。然らざれば、局部思想に止ま、偏見に陥る。偏見危殆なる外來の病菌思想の如きは、要、此等の能力を缺くに由る。取つ可し。
見聞を廣め、疑問を解き、事物に當りて、體驗を重ね、思慮を審かにし、判斷を明かにす。
「悉く書を信すれば、善なきに如かず(孟子)の語、移して「盡く新聞を信すれば、新聞なきに如かず」といふに適用すべし。其行はるは勿論無きに勝る。唯要は、其眞否の辨別と、内容と其程度如何に在りて存す。尙未熟なり、其原因(修養)古の傳はる根柢しあればこそ、開け行世の基ともなれ古に推し今に驗するは、惑はざる所以なり(素書)。
古に鑑み、今に照らし、中正に基むる、常道を行く。
怒り易きは五つ(の)のしき弱點を有す。即ち雅量乏し、智慮乏し、理解乏し、膽識乏し、忍耐乏し、是也。
運・根・鈍の鈍は單なる鈍に非ず、信念力の強固を意味す。魚は餌に集まり人は利に走る。修養には、宜しく讀書、自省を以て何とし、直言・多聞を以て利とすべし。
益者三友、直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とす(論語)永字八法。問架結構八十四法又九十二法(書道にいふ)。
様の下の力持ちは、是れ陰徳に近き者。
恩を知るは大徳の本にして、善業を開く(初門也(大智度論))恩を知るは禽獸に等し(同上)。▲禽獸何れ恩を知る者あり。知つて之れに報ゆるの實例あり。然るに人にして、禽獸にも劣る取つべき行爲を爲す者あり。甚きは恩に仇を以てする人面鬼あり(香菴の修養)。
心すかしも(枕の草紙卷九文中の意を附めて)。
己を空うして、人の我に教ふるを聽く(司馬溫公)。
老ゆるに従ひ、思想豊かみ、思索に通ずるの樂みは、到底若き時に味ひ得ざりし絶大至妙の愉快に屬す。
行 力
學を好むは知に近く、力め行ふは仁に近く、恥を知るは勇に近し(論語)。○學術工藝は多く是れ古人智能の遺産。學は是徳を修む、徳ありて後、言あり(近思錄)。

多情多感より多思多考に、心地の開拓は後者の思索に待つ。而して清道に基くに於て、胸中常に百花園。智者は聞かんが爲めに屈す(法華經)。○智慧の泉は、書籍より湧き出る(ギリシア)。○智慧は生活の眼(ドイツ)。注意は神の聲(代聲)なりと感受せよ。而して注意に由て誠意を覺るべく、又注意を喜ぶと否と。而して其人の器の大小及本性の良否を識別すべし。
漬しの效く人間にして、初めて其人の眞價を發揮す。天には太陽、地に日本(新編)大帝國の歌の冒頭語)。(澤入逸之)。
○天才とは細心の極致なり(澤入逸之)。
但し之と共に大群に通ずるを要す。さなくば、單に局部的精鋭するの弊に陥り全才と稱し難し。
徳的實踐するの工夫は、日新に在り(古語)。
讀書は、智を廣め、理を明かにし、想を豊にし、考を審にし、慮を深くし、辨(を)を定むる最良の顧問なり。
行
學で思はざれば、則ち固(を)し(論語)。○學ぶに暇あらずと謂ふ者は、暇ありと雖、亦學ぶを能くせざる者(淮南子)と謂ふて過ふなく、富んで驕るなし、如何との子貧の問に孔子曰「可なり。未だ貧うして樂み富んで禮を好む者に如かず」と。清道子曰「可なり。而も貧うして禮に頼るに如かず」と。富んで能く公益に散する者に如かず。又曰、而し(を)ひ富んで能く公益に散する者に如かず。又曰、而し(を)貧しきより富み起り、富んで常に徳を施す者(イキキ)と。○貧しき自由は、富める奴隷に優るイキキ也。
身の爲めに君を思ふも二た心。君の爲めにと身を思は(補正成)▲大聖雄大補公の忠死には、敵も尙ほ征衣を常はしぬ。是れ古今東西の史上に例なき事。
道を樂んで賤を忘れ、徳に安んじて貧を忘る(文子)。
満つれば缺くる月は、虧くるも亦盈つるを繰返すと雖、人世に在りては、満たざるに缺ける事あり。
寧ろ清貧自ら樂むべく、濁富にして憂多きを爲さず(顏淵)無意義・無趣味に世を送るは禽獸に異ならず。
面倒な事に耐ゆるの力と、之を處理するの智能なき者は、到底能く人を導き、衆を御するに足らず。
最も高麗な愉快は、其他を樂ましむるに在り。
物の本末大小を考へ(事の輕重得失を察し、以て方向を誤るなく、行實に忠なるべし)。

五、切抜くに當りては、先づ其要と不要とを別ち、必要なのは此際、其新聞を左右に正しく半截にする。而して此半截中、所要のもの、兩方にあれば兩方、左右何れか一方のみなれば、其一方といふ工合に、必要な分は、之を月日順に、若い日のを下にして挿へ置き、上部の古い日の分より取掛る。
新聞にして二種類以上ある時は、豫め其種別の必要は、勿論の事で、時に地方版ある場合は、混同せぬやう、心掛くべきである。
▲因に、新聞半截の効果、紙幅を狭少なため、取扱上切取上にも、頗る便宜を覺えしめる。以上は、是れ切取上に於ける總論ともいふべきものであるが、之より其各説とも稱すべき心得の事項に就いての場合を聊か。
1 中程になるのを切抜く場合、小刀では別に都合わるくもないが、缺では少し勝手がある。此場合には、其記事の紙幅の中央からきつちりと横折りにして、其横折された外側の下の方から缺すれば良い。
2 背合せの記事等の場合、所要の各記事等が、一紙面の兩頁に記載されて、彼此表裏多少の衝突を來し、比翼の鳥ならぬ背合せのは、宜しく其記事等の必要程度や、長短等をも考慮して、取捨すべく、若し何れも捨て難き場合は、別之を求めざるか、又は書取るか、さなくば未だに適當の線又は記號を付け、目次の備考欄にも心覚えする。
3 挿込みの廣告等を切抜いて意が出来た場合、意を其まゝにして、其中へ、カット等の挿込みも挿入するか、又は記事に就ての、何かの思付を記するも面白からう。
此の挿込みのには、左右に區切の縦線あるものなるが、其の縦線は之を存置せしめて切取り、以て記事の中断でない事を證すべきである。
4 切取りの紙面が、種々の形を成す場合、即ち鏡形(乙字又はL字或はT字形)や凸字形・凹字形・E字形・丁字形等なる場合には、其紙幅や其時の貼付臺紙の餘裕の程度如何に依つて處理すべきが、適宜折返すも宜しい。
5 記事が長篇に渉る場合、は、鏡式貼りが良い。此く爲せば、普通六段又は七段貼りのを、十數段にも尙ほそれ以上にも貼り得られる。若し夫れ若干日に亙るの非常に長い續物の如きは、貼り付けず、別に纏めて綴込んだ方が好からうと思ふ。尙ほ述べ度、心得事項多きも省く。
6 切取りの分等取調への必要、以上にて、切取上の事務、一通り終らば、扱て切取の分に、若しや見落しなきやと一應取調する事が肝要である。時として新たに有用な記事が見付かつて、思ひかけなき欣びを拾ふ事がある。
副記 此抜萃帖には、幾多の特長あるが、之を省筆し、聊か目次紙等利用上につき一言。甲 目次の音別欄に就て「題號の頭音一字の外、其續く二・三音も別に注した方が宜い。但し二字目より小さく略書きに」。本帖には音別用として、別に餘分の目次紙を卷末に添へてあるが、之を利用の場合には、備考欄に、卷首目次の番號の記入を。乙 對照番號に就て「内容實質に關係する各題名の逐次番號を、無互に相記入し、以て檢索に便ならしめ、かくて前後二箇所番號でも、其關聯效用を無限に相記入し、以て區分け票に就て「縦横正しく臺紙に接着せしめ、線より所要の部位を鑑する。以上

番号	別番	題名	出所	番照	丁備考
20					
19					
18					
17					
16					
15					
14					
13					
12					
11					
10					
9					
8					
7					
6					
5					
4					
3					
2					
1					
40					
39					
38					
37					
36					
35					
34					
33					
32					
31					
30					
29					
28					
27					
26					
25					
24					
23					
22					
21					
60					
59					
58					
57					
56					
55					
54					
53					
52					
51					
50					
49					
48					
47					
46					
45					
44					
43					
42					
41					

部類種

皇紀二五

年

昭和

年

月

年

月

第

冊

藏

ハ行

博覽強記に足らず、唯思案考する者畏る可し(呂東萊) 萬金の富、以て吾が一日讀書の樂と易へず(河崎敬軒) 閑外の閑、閑内の閑、閑内相軋り、閑外相排斥す。 博く之を學び、審かに之を問ひ、慎んで之を思ひ、明かに之を辨へ、篤く之を行ふ(朱子、白鹿洞、教條) 貧窮に陥るや、才藝の美も、雨後の落花の如く。 風流に貴賤なし(和)。趣味亦城府なき所、交際上の樂園。 福は内。鬼は外。世の中の。外も幸の。世の中と爲せ。即ち「福は内、幸も外」、又は「内も福、外も福」。 平和を愛する念慮最も強き日本人は、亦最も忍耐に忍耐する力にも強し。其結果反動的に戦争にも亦最も強し。 路記せよ、海外某國にありて、排日問題の起れる時、日本人の生命財産等の被害を蒙るの懸念ありたるに拘はらず、留日の其某々外人等に對し、日本人の寛仁大度なる、何等復讐的暴舉をも敢てせず、其外人等が如何に安全に、我が帝國に生活し來りし事實の歴々たるものある事。 兵は凶器(漢書等)。老子曰、兵は不祥の器と。造道子曰、兵は利器なり。本來吉凶なし。吉凶一に其用途の良否如何に由て決す。即ち以て護身の具たり、降魔の劍たり、活人劍たるに於ては寶器たり。例を又夫の割捨刀(メス)に徴し見よ。 暴虎掠熊の器ありと雖、文物の節なき者は、赤子の雄剣を執るが如し(普公)。○程合を識るに於て、心安く過ち少し。

サ行

才の美あるも、驕且つ吝なれば、其餘は觀るに足らず(孔子) 三省を後にするよりも、寧ろ思慮を初に審かせよ。是れ後に悔なからしむる所以。例へば初め、人の爲に謀つて、能く忠ならば、何ぞ疑つて後に傾ひ感ふべき。夫れ省みるには宜しく向上的に最善最良の工夫に及ぶを要す。 至善名なく、至徳迹なし(老子)。○至妙修むなし。 趣味を行せざれば、天才も高等なる愚者に過ぎず(ラッソ) 衆を待んで、寡に抗す。性者尙ほ之を能くす。此の如き卑劣の行動は、眞の日本男子の愧ぢて、爲さざる所。 寸鐵人を殺す(古語)。○造道子曰、寸鐵人を殺し、又人を活かす。○少しの隙も、大きく視はる。 聖賢の書を讀み、神仙の道を樂しむ(徐南復)。○聖人は天の口なり。賢人は聖の譯たり。潛夫論。○善は行ひ易し。俗務は活務なり。能く活務を處理するに於て、有用の材たり。○袖の振合せも多少の縁(和)。△袖振合はさすとも、皆多少の縁を以て繋かれ、而して縁は廣く、深く永へに萬事萬物に及ぶ。是れ所謂隣我なるもの。人々隣我を解するに於て、心相融け合ふ。 野に在りて世に教へ、俗に交りて人を導く、是れ和光同塵の教化なるもの、政教その中に活く。 弓矢取る身は、名こそ惜けれ(平家物語)。○武人たらざるも、日本人は名譽を重んず。○譲り合ふ所に人情味の花が咲く。○世は人の持つものに非らず、道理の持つものなり。世に用ゐらるゝを好まず、世に用ゐられざるを患へず。好まず、患へざるは活眞なる者なり。(大思想家、安藤昌益) 世に思索ほど、困難な事業はない。(ヘンリー・フォード) 能く思索に通ずるには、活潑の觀察(浩觀)を要す。 我が紀元(皇紀)並に年號を尊奉し、又吾が國語を尊用し、愛用せよ。斯くて先づ自主の本心を覺醒し、茲に思想上の自給自足を爲し、以て他に資け。(請ふ自ら悔る勿れ) 吾が唯一の神道は天地を以て書籍とし、日月を以て燈明とす。○皇紀(皇紀)吾に師なし、古今の名書書を以て師とす(無村)。

イ行

畏友は嚴師に勝る(新田小語)。○畏友は直言を骨とし、學識を肉とする者たる要す。○偉人の大なるは、大凡の如し。 井戸水は深きほど良し。友は舊きほど善し。 繪畫の六法。一、氣韻生動。二、骨法用筆。三、應物象形。四、隨類賦形。五、經營位置。六、傳模移寫。(張彦遠) 遠慮なき正しき批評又忠告を歡迎し、衷心感謝せよ。 温古知新(古きを温めて、新しきを知る)(論語)。 尾にて鳥は排を取り、犬は感情を表はす。 以上、百二十餘句中、大半記なき分は、 仲春の陽色、四方に搖曳するの好季に際し 昭和甲戌三月四月の交 浩影 増田日新生しるす

○誤りの諸原因

- 一、名實、時度、理數、縁比、容相、本質等に基く、正しき觀察眼の不備、即ち見聞の粗漏、雜誤、混同、偏見、片口問答、誤解、臆斷、分量、程度並に割合の相違等。
- 二、觀察正しきも、表現(言文、形容等)の不適切、不完全に基くもの。即ち意義上、本質上より、語法上、論式上より。
- 三、形容並に譬喩の誇大又は過小、或は似て非なるもの。或は又殊更に事物を添加し、又は削除するに基くもの。
- 四、語調、興味の又は形容の表現の誤傳に基くもの。
- 五、餘儀なき事情に基くもの。即ち世辭粉飾、情實、利害、名譽、味、面、功、名、心、成、業、心、其他感信上より。
- 六、好愛、嫌惡、趣味の程度有無、教養如何に基くもの。
- 七、故意に基くもの。即ち情弊、開弊、庇護、犧牲、秘密、事實の陰蔽、假裝、倒置、利害の關係、又は衝動的のもの。
- 八、惡意に基くもの。即ち嫉視、排斥、猜疑、邪推、虛構、誹謗、告、偽證、冤罪、教唆、脅迫、進言、傳、敵愾心、又は過失、罪過の轉嫁等。
- 九、過失に基くもの。即ち昏見、輕信、認識不足、印象不正確、錯覺、色盲的錯覺、感情の昂激、異名同義、同名異質、類同、擬似、方言、訛言、急遽、速報、速報、速報、聯想作用の轉移、轉寫、其の他内覺、環境等の影響等。
- 十、時の流れと共に文献その他に據るべく、徴すべき物件の消滅又は湮滅するに連れ、牽強附會の説出づるに基くもの。

○序録 夫れ記録、傳聞等を視聽する者、其眞偽並に其程度如何を鑑別せんとするには、如何にすべきか。之を知るの方法や、頗る困難の事に屬す。即ち聊か之が參考にもと爲東平ら、誤りの諸原因を掲ぐる事、如何件 (皇紀二五九四年四月十二日深夏撰す)

徳川頼倫侯を語る

橘井清五郎

徳川頼倫侯を知らんと欲せば先づ其家の傳統を識つて置く必要がある。

侯は紀州家の第十五代の主である。紀州家は幕府御三家の一である。家康は將軍職を秀忠に譲り、弟義直を名古屋に、頼宣を和歌山に、頼宣の同母弟頼房を水戸にそれ／＼分封することに成るが、頼宣が紀州に封ぜられたのは家康薨去後のことであつて、家康の遺言では頼宣を自己の引退した駿河の國主として此れに遠江參河を加へ、百萬石の大守と爲さんとしたと傳へられてゐるが、幕府は其威勢を憚り西國諸藩の鎮封とするとの口實で頼宣を紀州に移したのであるが、頼宣は隱忍能く出處を誤らず、難治の封内を緩撫し、専ら幕府の輔導役として勢力を有し、兄義直と常に同格の待遇を受けてゐた。御三家中最も權威のあつたのは紀州家である。頼宣の孫に當る吉宗は紀州家の五代であつたが、本統を續いで八代將軍となつて時政を改革し、家康の舊政を復し、何事も大御所の通りと唱へて節約剛健の士風を起したのみならず、天文地文數學などの新しき學問を起し、治水開拓の業を奨めて世益を開いた。加之家康の御三家創立に倣うて田安、一橋、清水の御三卿を創立

して本統繼嗣の紛争を未然に防いだ。紀州家へは其後將軍家齊の子齊順齊經の兄弟が入つて第十一代十二代となり、齊順の子慶福が十三代を承いだ、慶福が本統に入つて十四代將軍となり家茂と改名す、紀州家は慶福の跡を支藩西條より茂承を迎へ十四代の主とした。而るに將軍家茂若くして俄に薨す、繼嗣問題起る、水戸の慶喜出で、一橋に入り而る後出家茂の後を承けて十五代將軍となる。時世一變内治外交紛々擾々の間に慶喜は將軍を辭し本統より隱退す。其後を繼いで田安慶頼の長男龜之助出づ、家達之れである。田安家は弟達孝が繼ぐことになる。而る處紀州家の茂承へは伏見宮貞淑夫人の降嫁あつて女子を生んだが男子が長世せなかつた。其長女の久子姫に田安慶頼の末男勝之助を迎へて名を頼倫と改め、紀州家の第十五代の英主となつた。

以上如く本支錯雜してゐるが、始祖以來血統少しも絶えず、出入ごとに紀州家の血統は益々濃きを加へて來てゐる。優生學者の説を信するならば祖先以來の優秀なる性格が頼倫侯に及んで愈々發揮することになる。

頼倫侯は明治五年六月廿七日東京田安邸にて誕生、父は贈正二位徳川慶頼卿、母は閑院宮一品式部卿孝仁親王第三女光子の方とす。幼名藤之助と稱す。明治十三年二月十日紀州家第十四代茂承侯の養嗣子となり、麻布飯倉の邸に入り、名を頼倫と改む。二十三年九月久子姫と成婚す。幼時本所江東小學校に入り、次で高須小梅の塾に學んだが、紀州家に入つて以來名儒秋月胤永の訓陶を受け、書は賜觀堂成瀬大城に就いて練習した。明治十八年學習院に入り四年在學、其間英人ロイド等につき英語を學び、三宅捨吉、津田梅子等に就き勉學す。又た山井幹六を召し専ら漢學を修め、廿二年養正塾を邸内に開き、舊臣の子弟と起居を共にして修業す。山井幹六之を督す。又た米人リスカムにつき語學を學ぶ。明治廿九年三月英國に遊學しケムブリッジにて専ら紳士風の薰陶を受く。鎌田榮吉、齋藤勇を見逐隨行せり。居ること二年にして歐米諸國を視察して歸朝す。卅一年邸内の一部に南葵文庫を創立し、家藏の圖書を整理して此處に納め且つ有志の閱覽に供す。侯は此の文庫を以て平生の書齋に充て、日々時を期して必ず出庫勉學せらる。四十一年十月十日文庫擴張工事成り公開す。此れより以後文庫に於て諸方面の學者を招きて講演會を開き、或は發明家を聘して其實験を聴き或は特殊の事項に就いては各其専門家を招きて其意見を尋ぬる等専ら實學を旨として、あらゆる學科に就き多量の智識を養生せられたるのみならず、有志と共に學會又は協會を作り、會員と共に研究

する所少なからず。故に倫理、歴史、地理、社会、教育其他の學者にして侯の知遇を得たる人々頗る多かつた。後年諸學界又は協會より争つて總裁を願出づるやうになつたのも偶然のことではない。

頼倫侯の青年時代には身體の鍛錬に勵まれた。柔道に擊劍に乘馬にひととして熟達せぬものはなかつた。思想身體共に剛健な方であつたから其師範となつた人々も力を盡して教導に當られたが、随分苦心をした人もあつたと聞いてゐる。或る時柔道の師範某が道場に於て練習中侯の身體を力をもめて引寄せたが、侯は此れに對し滿身の脊力を出してグット師範を抱き締めたが其人がウーンと唸聲を出して氣絶した騒ぎが起つた、侯の體力の如何に強かつたか、知れる。それより以後道場は休止してしまつたが、馬術は邸内の馬場で日課のやうに勵まれ、藩出身の軍人等を招いて打球を競はれたりしたが侯の技術に匹敵するものがなかつた。山田良之助中將等も若き時常に競技に召された一人であるが、其語る所によると侯が右手で球を握ひ左手に鞭を振ひ、手綱を離して球門に向つて驅けて来る勢には誰も立向ふものが無かつた、又た敵の揚球を馬の後足で踏へさせたり馬腹の下に隠されたりする技術には友人でも感心する程であつたことである。實に武道に於ても容易ならざる力を有つてゐられた。在英中にも自轉車で長途の旅を試みられた。然るに此

の剛健勇猛の人が驕然として愉快恭謙な紳士と變じて、誰れも侯の武道がしかく優れてゐたことを知らぬ程になつた。其れには所以のあることである。

三上參次先生が未だ博士にならない若い時に、博文館から松平樂翁侯の傳記を出された、偉人叢書かよなにかの一冊である。之を侯に獻じた所侯は一讀されて大に感動せられた。樂翁侯は云ふまでもなく侯の生家田安家の人である。傳記に依ると、樂翁侯は若い時武術を好み文事を疎にされた程で、側近の人も心を碎いたこともあつたが、一旦志を屈し文事に思を潜めるに至つて俄然として性格を一變せられ、恭謙博識の殿様となつて温雅諸侯第一の人となつたといふことである。頼倫侯が樂翁侯の傳記を御讀みになつて感激を深くされたこと、前にいつた師範氣絶の珍事等が少くとも侯の性格の一變せられた一因をなしてゐること、推察せらるゝ。侯の一生の動作は樂翁侯に甚しく似てゐる所がある。侯の御殿の一角には九思齋があり、樂翁侯の九思の歌が掲げられた。南葵文庫の庫主室には樂翁侯筆の政談閑適の大部が壁間に掛けられてあつた。其私淑の一端が窺はれる。又た樂翁侯は思想は極めて華麗でゐられながら毎に儉約を旨とせられた。浴恩園には花卉草木の珍種が集められ、鳩の種類を養はれて文見等をして寫生せしめられた。頼倫侯は自ら持すること節約である。高麗園には山野の珍草を養育されたり山椒魚の巨大なのを飼は

れたりしてあつた。而かも草木の醋葉を襖に貼り込まれたり寫生帖を作られたりしてあつた。樂翁侯には白河文庫があつて有要な圖書が澤山に納められてゐた。頼倫侯には南葵文庫があつて内外有要の圖書が庫に充ちてゐた。樂翁侯は幕府の政權に重大な役目を盡した。頼倫侯も研究會や宗秩齋總裁として人の知らぬ苦心をされた。而して兩侯共に政治の終りは其思ふ通りにならなかつた。其他平生の起居動作に至るまで能く相似の點があつたことのやうに思はれる。

(8)

侯は敬神尊皇の念は極めて深かつた。平生家居の時は申すまでもないが、御旅行中でも寸時も忘れるやうなことが無かつた。其二三の例を擧げて他を推測を願ふことにする。大正六年十一月鹿兒島の九州支部大會の歸途、貴人の未だ一人も通過がないと言はれた日豊海岸を汽車は工事中であつたから、三日がかりでガタ馬車に上つた。途程は視察された、其中にメサホ塚ヲサホ塚として規模宏壯の大墳がある。其土地の案内人が忽々として塚上に走せ昇り、侯を塚上に案内せんとした。侯は默然として塚下に屹立してゐた。隨行者が先づ塚上に一歩足を上げんとした時に侯は嚴然として之を制止した。殊更言葉は低めて隨行者を戒めて言はるゝには、古皇族の御墳墓と承はるゝに土足で上るとは何事ぞと、隨行者は恐縮し、案内者にソツト侯の御意志を傳

へたこと、案内者も平身低頭其身の御意志を察して背汗して恐懼したことがある。又た其歳の夏であつた、大臺ヶ原山を探検せられたとした時、和歌山に立寄らるゝ用があつて奈良ホテルに一夜宿泊された、其翌朝いつて奈良は餘り早起きでない侯が此朝にかきつて日出の頃に最早起きてゐられる音がする。隨行者は侯の室の前室に宿してゐたので直ちに起きいで、戸をノックして外から御目覚めですかと伺つてみた。内から御答があつたから戸を開き朝の挨拶を申上げた。其時侯は既にプロックの姿で嚴然としてゐられたので、早朝何處かへ御出の御豫定ですかと伺つたら、侯は別に他出の要はないが今日は明治天皇様の御忌日に相當するから東京の御陵に向つて御拜をしたのであると仰せられたので、隨行者も疎然として敬意を表した。又た日は忘れたが別府御滞在中のことであつたと記憶する、嚮中を徒走散步中侯が長身を屈して何にか紙片やうのものを拾ひ上げられた。此の如きことは侯には曾てないことであるから不思議に思ひながら、其時は何もお尋ねせなかつた。旅宿に歸り夕飯後御室で打ち寛いでお談をしてみた時に、晝間の珍事につきお尋ねしてみたところ、侯はお前が氣がついて居たか、とて側の机上より日記帳を取上げられ、中に挿んだ一片の紙片を示されて、路上に泥まみれになつてゐたから其儘では置かれまい、と言はるゝまゝに拜見すると、地方新聞の破片であるが、尊貴の御眞影が掲げられたものであつ

た。隨行者は自然と手を下げ首を俯してしまつた。凡そ此の類のことは数々あつた。又た御旅行先では神社佛閣先賢の遺蹟などは必ず参拜せられた。其一例として臺灣御旅行の時侯は臺灣神社、臺中神社、臺南神社を始め開山神社、阿里山神社、臺北龍山寺、城隍廟、陳姓廟、媽祖廟、臨濟寺、芝山巖(總督府學務官等六名匪徒の刃に斃れた跡)臺南孔子廟、赤崁樓、媽祖廟、其他を凌らず参拜された。圖書館地方大會の如き寸暇のない間でも何時の間にか其地の神社先賢の墳墓に参拜せられ、萬一其機を得られない時でも隨行者に命じ幣用を上らしめられたことが多い。又た侯が宗秩齋總裁を拜命なつた時陛下より賜はつた花鉢一盃を長く手當てをして花を維持されてゐたが、其間に造花師に命じて其花を寸分違はず模造し、皇恩の辱なきを日夜記念する爲め床上に飾られてゐた。又た宗秩齋總裁となつて間もなく皇族に御不幸があり、引續き或事件が発生し、侯は中間に立つて非常に御苦心され夜も一睡もせられなかつたことが幾日かつた、事件を圓滿に處理せられた。此事件に關係せられた朝野の人が侯の精誠に感動せぬものは一人もなかつた。

侯は御親族の方々に對しても實に謹嚴なものであつた。伏見宮貞愛親王殿下は侯の夫人と従妹の間にあられたが、殿下に御謁見の時などの御丁寧さは實に平民共の想像出來ぬほどであつた。御兄弟の間柄であられた家達

公、連孝伯并各御夫人に對しても他方から見ても御兄弟と思へぬほど恭謙な態度であつて、其間に和氣の溢れてゐる狀況は實に敬慕に耐へないことであつた。これが其他の御親族に對して其調子で終始貫してゐた。御親族の家職員に對してのみならず内の家職員に對しても常に愉和を以て臨まれた。如何やうな失錯があつても直接の御叱りはなかつた。他日何にかのことにつけて外事のやうに柔はりと戒諭されるから、家職の者共は一度過つても再びと爲さぬやう戒告し合つて互に慎んでゐた。故に侯の御存命中には家職の中に一人の不都合な者は出なかつた。皆其徳を敬仰して恰かも孝子が慈親に事へる如くであつた。其一二例は圖書館雜誌大正十五年五月總裁紀念號德輝餘光にも書いてある。

(9)

御夫人との御間柄は申すだけが却つて失禮になる程で、華官界でも羨望する所であつて、其侍女共に至るまで誠に愛撫されて使はれたから、一度御邸に上つたものは終生其徳を稱せぬものはない。

侯は御親族の先々では、其地發着毎に知事市長其他有力者へは必ず御自身で御挨拶に出られるし、宿舎に入つてからも地方人が尋ねて來られるを少しも御厭なく接見せられる。而して目的の用件には少しも豫定の時間を缺かさぬやう務められるから中々寸暇もないが、僅かの間隙をみて必ず偉人孝子節婦の

趾を尋ねて敬意を表せられる。圖書館協會に關する一二の例を擧げてみれば、山形大會の時田中一貞君の勸めで温海へ回られたが、朝飯前孝子慶玉の趾を尋ねられ、細井平洲の撰した碑文を撫し、寺堂に上つて禮拜された。寺僧があまり早いで驚いた。大正六年十月の九州へ出張の時であつた、博多から午前四時頃起床、一番列車で多久の聖廟に詣でられた。其夜は侯には一睡もされなかつたと推察されるが、會員中には隨行を求めてゐながら餘り早かつた爲め落伍した人もあつて、今に其時の談が同人間に起る。又た鹿児島支部會の時には文之桂菴の史蹟を尋ねられることを怠られなかつた。

其外日本弘道會や史蹟名勝天然紀念物保存協會の地方會に出席せらるゝ場合には會の性質上賢人偉士孝子節婦に敬意を表することは言ふまでもない。而して其訪はれた各地の重要な事項は悉細残らず歸宿後夜半を過して日記に書き上げられた。

侯は如何なる種類の人をも引見せられた。尋ねて來られる人の素性が明白であれば、要務に差支なき限り面會される。家職の者が少少心掛りのやうに思はれる人々にも、嫌な氣色もなく快よく面會される、學者たると政治家たると實業家たるとを問はぬ、一寒の書生でも敢て斷ることはない、況んや地方から上京した所謂田舎者にも御面接を拒絶され

めに面會を請ふ者にも金錢を求むる爲めに直接面談を申入れる者にも玄關拂をしたことはない。若し要務の爲め御自身面會の餘裕なき時は家職の者をして丁寧に應接せしめて來訪者の意を盡さしめて歸らされた。若し學者趣味家などが談が熟することになれば夜半を過しても談される。某記者が華族全廢論を掲げて侯に面會を求められた、侯は快よく面會し恭謙な態度で諄々と談を進められ却つて記者の方で談負けして歸つた。後友人に、華族中に頼倫侯の如き人があつたらば華族全廢論の筆鋒が鈍る、と語つたことは今に至るまで世上の話に上つてゐる。

侯に接する人々は面會の最初の瞬間の印象で既に侯に服してしまふのである。悠揚迫らぬ態度や最初口を發せられる御挨拶の一語で人々は既に魅せられてしまふ。椅子に倚られる風姿や一言一語少しも亂れぬ言葉遣ひ、而かも相手に應じて各種の最新の談話をして却つて専門家を驚かされる、多識を誇つてゐる人でも侯が何時何處から此の如き資料を得られたのかと思ひ考へるほど多種多様な話材料を有せられてゐた。

侯が人を服する徳は目から備はつてゐたものと見える。侯が英國ケムブリッジで彼國の貴族と伍して紳士薫陶を受けて居られた時の貴族と伍して紳士薫陶を受けて居られた時、南紀の奇逸多識の學者南方龍補氏が滯英中であつて、侯が南方氏と共に英國皇立人類

學士會員キリヤム・ガウランド氏が日本貴族來れりとしてロイヤル・アカデミーの俱樂部で饗應があり、終つて後ち南方氏とリード男爵とが醉を醒ます爲め徒歩つれ立つて話をしつつ歸つた。途中侯爵の談にも及んだ。南方氏は侯爵の記憶よく、一度會つた客の名刺が如何な訓み難い記憶し難い姓名であつても確かに覚えてゐて後日其人のことを話されることを語つたところ、リード男は當時皇太子であられたエドワード七世の例を上げて、皇太子は車夫馬丁に至るまで親しく話され一度其姓名を聞けば牢記して忘れず、年を経て突然其人に遇へば姓名を呼びて安否を問はるゝ、之が爲め皇太子の聲望は非常に良く、政治家等が兎角批評する者あるも其輿望は衰へぬ、此等が所謂ロイヤル・キヤラクターである、平民共の及ぶ所でない。侯爵は正に其性格を備へる人であると言つたといふ。

大正十年初夏の頃紀伊田邊へ旅行された。一日侯が旅館から無朝徒歩で南方氏の宅を訪ねられた。南方氏は人も知る如く磊落度逸した程の人で夏などは眞の赤裸のまゝ、客に面會して平然たる人である。侯が紋付羽織で袴を穿ち南方氏を訪うたのであるから此時ばかりはさすがの南方氏も恐縮したといふ。其翌年南方氏は大磯の別荘高麗園の侯爵を伺候した。應接室にて面談の後ち園丁の案内で庭後の高麗園に蒐集栽培してゐた植物を二時間ばかり巡見後再び歸莊、侯に面會したが、侯の

ら足の据を處まで寸分以前と變つてゐなかつた。此の如きことは歐洲の貴人などにはあるが日本には近年一向見たことのない所であるとして賞嘆してゐた。南方氏ほどの他人に頼着せぬ磊落奇逸の人であるから其他の人々が侯に接して一見直ちに服するのは當然である。彼の華族全廢論者が一度侯に面會して遂に屈伏したのも一侯に天資の徳賞があつたからであらう。侯が歐洲の隅々まで巡見して米國に渡られた時、日本にも此の如き貴族があるかと米人を驚かし、在米日本人は侯を日本人の名譽の爲めにとて諸方を連れ回つたこととである。此れも侯の徳性の一である。

侯は東京で生れ東京で育つた人である。維新後舊領地の人々と徳川家の接觸は一日と薄らいで行つた。古老の人々も日々湖落し、其當時未だ若様であつた頼倫侯には稀れに參邸する老人の外は舊藩地の人々に接する機會が少なくなつた。侯の御考では、三百年間の舊誼を捨て、顧みざることは甚だ不可なることとである、是れ宜しく機宜の策を講ずべきである、とし當時和歌山出身の軍人が組織してゐた伏虎會と文學生出身の組織してゐた和歌山學生會を一つとして文武兩道の育成機關を創立し、従来和歌山に於て舊士族子弟の爲めに設立してゐた徳義學校の趣意をも此の會の下に包含することにして、侯府家は之に援助することを計られ、其金數十萬圓を寄附し、

南英育英會を新たに起こし其事務所を南英文庫内に、其寄宿舎を元の養正塾跡に建てられた。斯くて文武兩道の學生を保護援助すると同時に、舊領地を範圍としたる官民に呼びかけ會員を募り侯府家との親密を復興し、父兄も子弟も共に郷里の幸福を進めんとし勉めやうとせられた。仍つて此會の春秋大會などは邸内を開放し、父兄も子弟も先進も後輩も一つになつて談話の間に種々の接觸を密にし、或は子弟の保護或は郷里の實業の開發に資する所あらんとせられた。設立後間もなく幾千の人々は或は賛助員に或は普通會員に集つて來て、侯府に直ぐに御面談もし希望も申出られ、大に郷里の幸福を増進した。また郷里の人に於て能力あつて世に彰れない人や事業が華麗でない爲に顧みられないことなどあつた場合に其人を表彰激励したり、事業を紹介發展に資したりすることになつた。發明家や美術家などで其恩澤に浴した人も相當あつた。學生ばかりでなく此等の方面にも大に幸福であつた、而して縣や市町村の事業にも直接間接に利益を與へたことは少くでなかつた。縣民再び徳川家と昔と體裁を新にした情誼が結ばれたのである。

侯の趣味は是れ一つと取極めたものがなかつた。多識多面の方であつたから特別の御趣味と申されぬ。凡そ人の上たるものは一技一能の偏才では成功しない。若し強い侯の趣味の深かつたのは何んであるかと問はれたな

ぬ。侯自からもそれ程重きを置いて居られなかつたであらう。侯は一技の爲めに心を凝固化するを嫌つてゐられた。

侯が責任を重んぜらるゝことは亦た人の能く知つてゐる處である。小約と雖も必ず實行せらるゝ。却つて場合によつては其實行が向ふの人を恐縮せしむる如きこともあつた。如何なる事業も引受けられた以上は自から進んで其當面の責に當たられる。世間の人のやうに名前だけ聯ねて陰にすくんでゐるとは全く撰を異にする。時には評議員、顧問などの當面の責任者でない風を見せて其頭首株よりも働いてゐることもあつた。而して人の功を盗んだり自からの功を誇つたりすることは毫末もなかつた。侯の御身分としては其様な不徳を取つてする必要もなければ心に浮んで來なかつたであらう。故に世人が侯の徳行として賞嘆してゐるのは陽に現はれた部分だけで陰に隠れてゐる部分は大半減してゐる。事によつては陰徳を被つた人が世間の體裁などを憚つて沈黙してゐるが、心の中では感謝泣拜してゐる人も澤山あるであらう。報償の爲めに陰徳をなす如きは却つて惡徳である、寧ろ爲さざるが宜しからん、とは常に侯の意中に潜んでゐた。一旦善行をなせば其事已に終つたのであるから、其徳が忘れられよぶが感謝せられずにあらうが侯は何等念頭になかつた。其後の経過は自然に任せばよいとせられた。而して一度び表面の責任を受けて立

れば決して間違のあらう筈はない、早速賛成助力を致しませう、と承諾せられ多方面の援助を寄せられた。此等は僅かに一例に過ぎぬ。侯の爲される處は常に熱慮斷行で公私の事いつも此の手腕を振はれる。

侯は教化、學術、其他公益事業には自から進んで衆を率ひ盡せられた。其經費も容易な事ではなかつた。侯は衷心其事業に熱心であつた。此を見て世間の人は、侯の豪富を以てしては何事でも出来る、良い道樂である、と批評した。全く精氣の抜けた遊伎視してゐた。侯は他人の批評には辯解もせず自から爲すべきことは進んで爲すのみであつた。一例を挙げれば、彼の史蹟名勝天然紀念物保存事業の主唱せられた初は内務當局でも此事業の國體に關係する程度を餘り多く認めなかつた、而して言ふには、此事業の如きは無害であらうが國家自から手を下すべきものとも思へぬ、侯爵が主唱せらるゝならば内務省に於ても援助は與へるが、省が自から進んで事業を引受けるとは躊躇する、と述べた程である。侯は之を聞き斷然自から之を引受け、動植物、地理、歴史、教育、宗教等廣範圍の有力者を網羅して協會を組織し、遂に此の事業を發展せしめ法律案を議會に提出した。此法律は所有權の制限とも視らるゝ條項もあるので通過困難の噂もあつたが、侯は自から斡旋して議員の有力者を説得して萬全の策をとり兩院共各政派を通して全員一致無修正で可

たれることになれば實に熱心金銀を熔すが如きものがあつた。彼の山本内閣の時、海軍當局を批難して海軍豫算を削減せんと議員の大多数が團結した時に、侯は當局の責任は責任として彈劾すべし海軍豫算は一日も緩うすべからずとなし、自から起つて貴族院で熱烈なる演説をせられた。衆議院では正義派の頭首尾崎行雄が起つて海軍を支持した。又た世に知られてゐないが馬寮問題の議會に上つた時にも某伯爵等と風紀上の點から反對し遂に一時は否決してしまつた。其俗論に拘泥せず終始一貫正義を秉つて起ち議員の責任として毅然として吾れ獨り往くの勇を示された。而かも其責任感に實に純白無垢の精神から出てゐるので反對された人も決して侯に對し悪い感情を持たなかつた。某華族に關する一事件につき宗秩春總裁としての責任上他人を交へす一切一人にて晝夜不眠不息の活動で事件を雙方共圓滿に解決して三方四方に喜ばれたことがあつたが、侯は他人に決して真相を語らなかつた。其精誠は僅かの人のみから嘆賞してゐられる。其人等は侯の其後の不健康は或は此時から兆したのであらうと悔しんでゐる。

我協會が侯に總裁をお願いした當初は容易に御承諾がなかつたが、一旦御承諾の上は自から進んで會員を引率して遠方まで出張されたり、多大の財力を支給されたりしたこと、我々會員は皆々知り過ぎてゐる程知つてゐる所である。

決した。而して此案は貴族院が先づ可決してゐる。未曾有のことである。遂に此事業は公然と内務省の所管となり、後ち文部省の保存局に移つた。現今では各府廳必ず重きを置いてゐる。國體觀念の保存、國民風俗の保存、國家道德の保護上缺くべからざる國家の一事業として存在することとなつた。今回の支那大事變に於ても此の思想を以て軍隊が支那の史蹟名勝學術資料等を進んで保護してゐる事實も全く此の事業が一般に認められてゐるからである。又た圖書館事業でも當局は餘り重要視せず、寧ろ學校教育には支障を生ずるとの意見も教育界に流行してゐた時に在つて一人の力を以て外邦の教育年鑑にも名を載せらるゝ程の設備を完成したことは單に道樂では出来ぬことである。本協會の如きは全く氣息奄々の状態であつたが、侯が一度足を舉げらるゝや起死回生醫術として天下の同志を奮興せしめ、年々各地に圖書館の増設を來たしたことは本會々員の親しく視て知つてゐる所である。其他大極殿保存、聖德太子奉讃、地學協會の支那調査事業、海軍協會の活躍等侯が一度び手を振れば立所に其業が完成した。此は全く侯の天稟の徳性の輝である。侯は何等求むる所なく街ふ所なく純乎として純なる精神を以て國家の爲め人類の爲めと思へば其事は自分等の爲すべきことで爲さねばならぬと思はれ、其他に餘念がない。故に何人も侯の爲すことには賛成せねばならず且つ侯の指揮を受けねばならぬのである。侯の思

侯は事に臨んで實に慎重な考慮を回らされる。人々が考へ及ばぬ將來の遠き關係や周囲の細かい事情を併せて深慮される故に、其考慮中が長びく場合もある。此様な時に人々は餘り悠長すぎると批評することもあつたが、決して無意味の悠長でない。其事の進行の後に於て其等の人々が自己の不明を懸つるやうな事を自然と悟る。一旦決斷された以上は勇猛果敢で如何なる障害が前に現はれても斷乎として邁進する。而かも障害の状況によつては一時頗かに静默するが其機を發見するや疾風迅雷目を蔽ふ暇もない間に事件が進捗してゐる。此の如き手腕は何時何人から傳授されたか誰れも知るものがない、否な之れは侯の自得で純白の精神の發露であるのみ。彼の大極殿址保存事業の如き、永年繼續して運動してゐたが一向に効果がなかつたが、侯が其事の性質上斷然爲すべきことと決心され、會を引受けて起られた時には既に十分の熱慮があつて後のことであるから一氣に事業を進捗して、現在の如く保存されてゐる。聖德太子奉讃會の事業でも太子の高徳を研究して後ち事業を引受けられた。而して佛敎關係の方面のみ知つて少しも贊意がなかつた遊澤榮一子爵を訪ひ、侯が自から奉讃會に賛成した経路を細密に談され、世間の一部から太子に對する誤解や太子の御盛徳を漏れなく説明したのである。遊澤子爵は此れを聴き終はられ、侯がそれ程熱考研究の上賛成になられたの

想の中心は國家道德己人道徳の涵養發展である故に關係諸團體の集會席上での挨拶演説中には必ず其趣意が述べられてゐる。單に智識の開發や利益の増進のみを考へられては居らぬ。圖書館事業の如きも單に開智啓蒙のみの方面を見て居られぬ、修徳の道場といふことを常に主張せられてゐる。故に若し侯の援助を被つた各會の人々にして侯の此の考に對し尊敬感謝の念を失ひ忘恩敗徳の舉止を苟くもなすものあれば吾人は鼓を鳴らして之を攻むべきであるが、侯の在天の靈は吾人凡夫と違つてゐて、自ら身を惡魔の群に投する憐むべき者には却つて愛愍の慈手を天から差延べられて救済の慈悲を垂れられるであらう。

侯が政治家になられたのは意外のやうで意外でない。其當時の政治家は策略と利權をのみ念としてゐた。侯の平生の徳性から此の状態は國家の爲め一日も打捨て置かれなかつたからである。若し政治の黨首等が侯の考へて居る所を實行する能はずんば家達公を黨首として道徳政治家を糾合し、道義政治を世に實現せしめんとの大望があつたのであらう。友人の伯爵某が侯の考が成就することの困難を忠告した時、侯は既に決した處あつたものゝ如く、默然として微笑せられたのみであつた。愈々研究會を統率して政治界に馳驅せられんとした際に、新聞紙には塚塚へ白鶴が降つたと批評した。而かるに侯の此の計畫を好まなかつた不徳の政治家は陋劣にも侯を讒害

せんとして新聞記者を悪用し、痕跡もなきこ
とを記載したこともあつた、曰く社會主義者
を隠匿す、曰く闇夜某所より密に歸る、曰く
圖書館協會を唆して文部當局を壓迫せんと
する等、殆んど想像の外なることを書いた。
側近の者が其記事を侯に示しても侯は一瞥を
も與へなかつた。蓋し侯は自身の潔白に十分
自信がある故如何なる誹謗があつても毫毛も
意に介せなかつた。此の如き戲筆は侯を知つ
てゐる者から見れば却つて興味ある一笑話の
種であつた。侯の計畫した政策は着々調査を
進められて居たが大正十一年宮内省宗秩寮總
裁に人が缺けた時は非侯の徳望を以て皇族御
身分のこと及華族の監督等を取扱はれ
んことを大臣より切望せられた。友人某々等
も亦た之を懇懇して止まなかつた。侯は事が
皇室に御關係あることなれば謙んで身を以て
洪恩に報い奉らんと決心せられた。此時に侯
の性格を示すに足る一事がある。侯を宗秩寮
の方へ向はしむる爲めに種々友人等が説教し
たのであるが、任官に就ての條件等は一向に
顧みられず一言も話に出なかつたのである。
任命のある其時まで親任官たるや勅任官たる
や將た如何なる御待遇になるや等のことは氣
に掛けられなかつた。一意皇恩に報い奉ら
んとの誠心あるのみであつた。生れて始めての
任官が親任官であつたので恐らく侯も一層其
責任の重きを感じられたことと思ふ。宗秩寮
總裁としては長く勤める年を許さなかつた
が、宮内省改革案等既に調査が略々なつてゐ



大正七年六月十日（前日第十三回全國圖書館大會を
終へて）越後加茂町公園の歡迎會に於ける徳川侯。
前列中央モニング・コートが侯。侯の傍に居るは
坪谷顯助。この行についての記述は坪谷善四郎氏
の「徳川祖傳侯の追憶」本誌第三四年第二〇一三
五頁）中第二四頁参照

たと聞いてゐる。
侯が此世を辭せられたのは突然とは言ひな
さうと聞いてゐる。

侯の言行につきては世の爲めに書き記し置
くべきことが公私に渉つて澤山あるが、盡く
之を誌せば幾千頁を帯しても猶足らぬとい
のである。中には未だ遠慮せねばならぬこと
もあるが、侯の平生の一斑は略ぼ前述のことで
能く察せられることと思ふ。又既に圖書館
雑誌に於て一周年御忌に紀念號が發行せられ
てゐるのみならず、圖書館協會に御盡しにな
つた事實は今日の會の存立發展其事だけで明
であつて、會員諸子の熟知のことであるから
細微に入ること avoided。
（筆者・宮内省圖書寮勤務）

度静養せられんことを願つたのである。大正
十年和歌山縣下の教育者二百名を招き、廣野
會の名を以て汽船を備船し瀬戸内海巡航を試
みた時から幾分神經質の徴候があ
つた。次いで宗秩寮總裁として東京御婚
儀委員を始め重大なる任務が踵を逐うて
出て来て日夜休養の暇がなかつたから長
期静養する機会がなかつた。十二年に別
府油布院で人を避けて養生せられ、九月
一日午前十時東京驛へ一路一氣に歸られ
歸郷後直ちに衣裝を兼へ宮内省へ出動し
一時間も経過せぬ中に大震災が勃發した
ので三日間省内で糧飯辨當で滞在せら
れ、三日市中鎮火の後寸暇を以て歸郷
し、邸内を皇族の御避難所に充てられる
こと等諸般の處置後再び出動せられ、毎
日諸方面に意外の御苦心が多かつた。十
三年に入り病微徴ながら折々繰返へさ
るゝ患あり十一月に紀州白良濱温泉に靜
養さるゝことになり、翌年温かくなつて
四月一日歸京して宮内省へ出動勤務し
た。患ふ可き程の變化も見えなかつた。
五月十八日平生の通り出動勤務し、夕刻
久通宮殿下を東京驛に送り奉る。夜に至
つても平生に異ならず、午後十一時將に
寝に就かんとせられた時俄に胸痛を覺え
られたので夫人及看護婦等職員等慌慌手
を盡し、醫師は時を移さず來診治療を施
す。十二時危篤に陥る。十九日零時十九分病
革る。主治醫千秋醫師及島岡博士等百方術を
きたきことが公私に渉つて澤山あるが、盡く
之を誌せば幾千頁を帯しても猶足らぬとい
のである。中には未だ遠慮せねばならぬこと
もあるが、侯の平生の一斑は略ぼ前述のことで
能く察せられることと思ふ。又既に圖書館
雑誌に於て一周年御忌に紀念號が發行せられ
てゐるのみならず、圖書館協會に御盡しにな
つた事實は今日の會の存立發展其事だけで明
であつて、會員諸子の熟知のことであるから
細微に入ること avoided。
（筆者・宮内省圖書寮勤務）

『圖書館雑誌』は 斯くあるべし

- 中島正文
- 1 『新刊圖書目録』について
 - 2 活字の組方（縦組可か・横組可か）
 - 3 過去（昭和）の掲載文中佳良と認められたもの
 - 4 本誌改善について

- 増田康吉
- 1 最近の新刊圖書目録は非常によいと思ひます
が、あれも矢張り幾段に分つた縦組のものにして
貰ひたい。
 - 2 組方はどうしても縦組であるべきものと思ひ
ます。
 - 3 圖書館雑誌が主として圖書館經營者を網羅す
る専門雑誌である以上常に圖書館の普及發展を
計る爲めの研究発表であることは結構であるが
又一面には圖書館人が今日の社會生活の中にど
んな内容を持つてゐるかと思ふことを發表す
る。文學の中にも藝術の上にも學者としても研

- 吉岡孝治郎
- 1 現在ノ御報告ノ状態ヲ結構
 - 2 横組可
 - 3 「科學振興と文獻圖書館の創設に就いて」
 - 4 古イ館員ノ再教育ニナルモノ、新知見、館界
各方面ノ専門的ノ論文ヲ多数掲載セラレタシ。各
専門家ヲ動員セラレタシ。
- 吉岡龍太郎
- 1 速報
 - 2 従来通り可
 - 3 全國館界の事情紹介より可なりと思はれしも
のなし
 - 4 公共圖書館の實際問題を多く取あげられたし

一葉ふね

第四號
昭和十六年六月三日
隨口一葉全集
第四卷附錄

題字 佐藤春夫
丸山福山町界限
一葉女史評傳の人
一葉君居るの境(宣紙)

東京市麹町區一番町一五
元園會館
新世社
電話九段(33)四四三五番
振替東京一四八七七番

丸山福山町界限

馬場 孤蝶

柳町、指ヶ谷町から白山下へ掛けて水田であつたことは私どもの記憶に未だ明かであるが、一葉君が福山町へ越した時分はその水田の埋められてからさう年數の経たぬうちであつて未だ彼の界限に新開の空氣が十分に透つて居た。その時分には——今でも或は左様かも知れぬが——新開の土地には必らず出来る一種の商賣屋があつた。さういふ商賣屋は新開の開拓者の形であつた。福山町近邊もその慣例に漏れ無かつた。

入り口は土間で、真中に白金巾を掛けた丸い卓子があつて、その上には安陶器の花瓶に花が活けてあり、壁には棚があつて洋酒らしい壺が幾つも古ぼけた銘紙を晒らして居るといふやうな家が、裏通りになる所には多く、殊に一葉君の近邊が左様いふ商賣屋の中心であつたやうだ。今喜樂館といふ活動小屋の角を曲つた所などは、その當時は披裏と云つて宜い程の狭さであつたが、その邊から一葉君の家の前までは右側は殆ど門並さういふ家があつて、人の足音さへすれば、ヘンに聲作りをした若い女の「寄つていらつしやいよ」といふ聲が家の裡から聞えた。一葉君の家へ行く路次の向つて左側の家には御待合といふ招牌が出て居たが、右側即ち今神道の某會本部になつて居る平家は、彼邊での一等大きいそれ屋であつたやうだ。一葉君は越してから間もなく、頼まれてその家の招牌に「御料理仕出し云々」と千陰流の筆を揮つた。「にごりえ」の菊の井は其の家を材料に取つたものであらう。その家に居た女で一葉君の所へ客筋へ出す手紙を書いて貰ひに来たものがあつた、其の女は其の後數寄屋町の藝者になつてからも、わざ／＼一葉君の所へ文を書いて貰ひに来た。これは一葉君から直接聞いた話であるのだが、二十八年の夏頃一葉君は面白い女があるので「放れ駒」といふのを書いて見ようかと思ふと云つて居た。一葉君が面白い女と云つたのは文を頼みに来た女では無かつたらうか、又「放れ駒」が「にごりえ」と變はつたのでは無からうか。それは右も左「にこ

りえ」の中の源七の住居の材料が何處から得られたかは、「よもぎ日記」二十五年十二月二十八日の條下を讀めば明かである。蟬表の内職は一葉君姉妹の實地にやつたことなのだ。一葉君から「白山寄りの方に、有名な儒者の孫が此邊同様の店を出してゐる、その家には祖父の學者の書いた見事な額があるのだから、お力の身の上話のなかにこの話に少し縁のあるらしい所がある。結城朝之助のモデルは誰だか日記を讀めば思ひ當る所がある。」「一葉全集」後編、「一葉全集の末」より。

一葉女史許嫁の人

市島 春城

自分は長い間毎日誌を書き今も續けてゐるが、別に役立つこともなく、唯に習性となつて續けてゐる迄だ。過ぎ去つた頃の日記を讀んで見ても一向興を覺えない。他人の日記などは、尙更のこと自分に何か交渉でもあれば格別、左なれば讀む氣にもなれない。しかも此頃何心なく一葉女史の日記の或る部分を開いて見ると、自分に因みのある名が二三出てゐるのでツイ引こまれて讀んで見て、アツと思ふた。それも無理は無かつた。實は半信半疑と云ふよりも無關心で過ぎ去つた、友人と一葉の關係を一葉が、細筆でありと描き出し、宛ら夢中映畫を見

るの思ひがあつたからである。

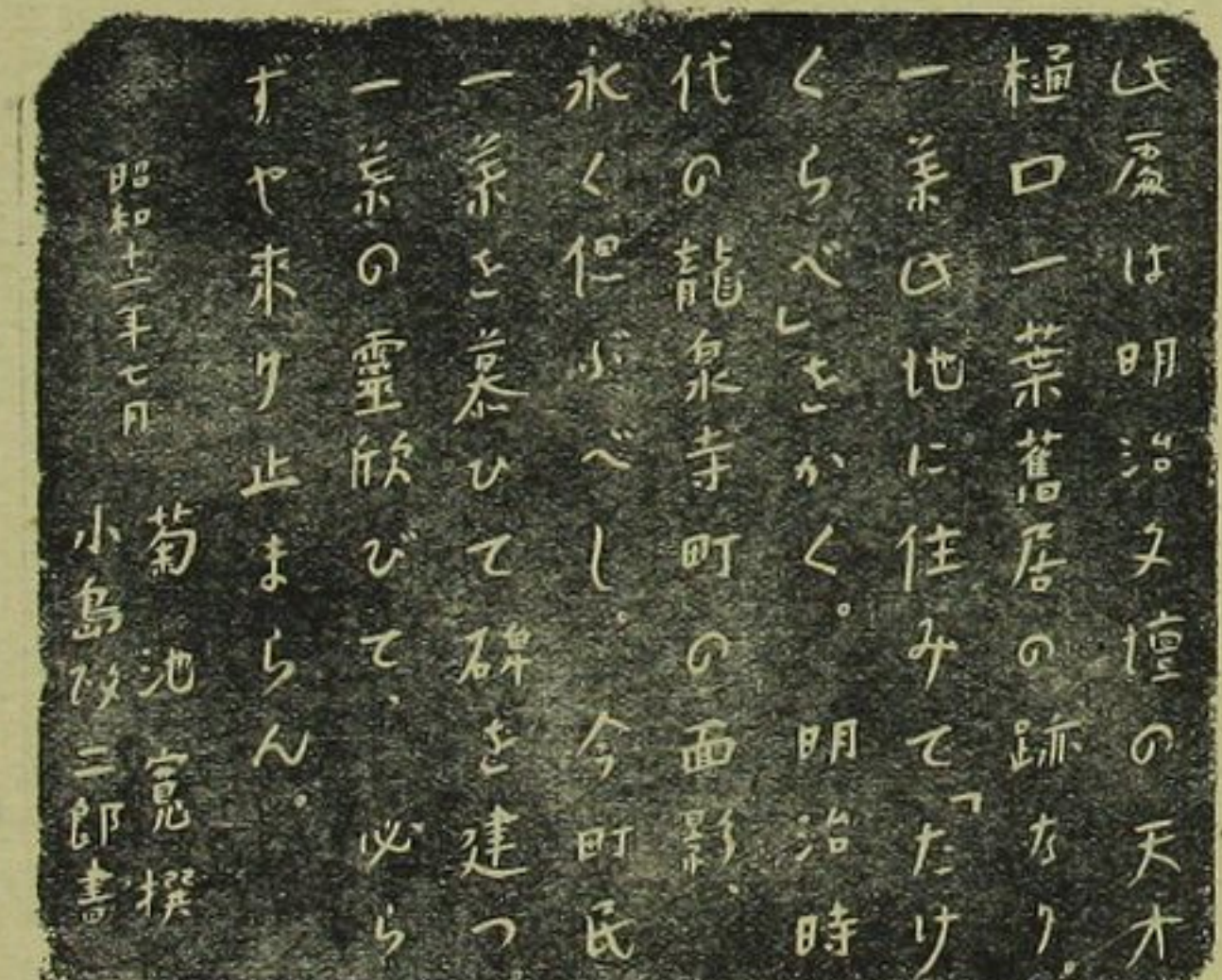
一葉が若い男と對坐して打解けて談話を交へてゐる其男こそ私の友人で、今は故人となつたが、日記に濫谷三郎とあるのが即ち坂本三郎の舊姓である。坂本なる濫谷がある時の雜誌中に樋口一葉は自分の雅な友達で許婚の間柄でもあつたと云ふたことがある。其頃一葉は既に文壇に名を成してゐて、某小説家と戀愛の浮説が立つたり、信夫知軒翁が後妻に迎へたいなど云ふ噂もあつたりして、一葉の名聲が高かつた時だから、自分は坂本の語るのを一場の出鱈目と聞流し無關心に過ぎ去つたのであるが、卒然一葉の筆で坂本の言が眞實であることを聞かされては、私もアツと云はざるを得なかつたので、日記も役に立つものであることを感じた。

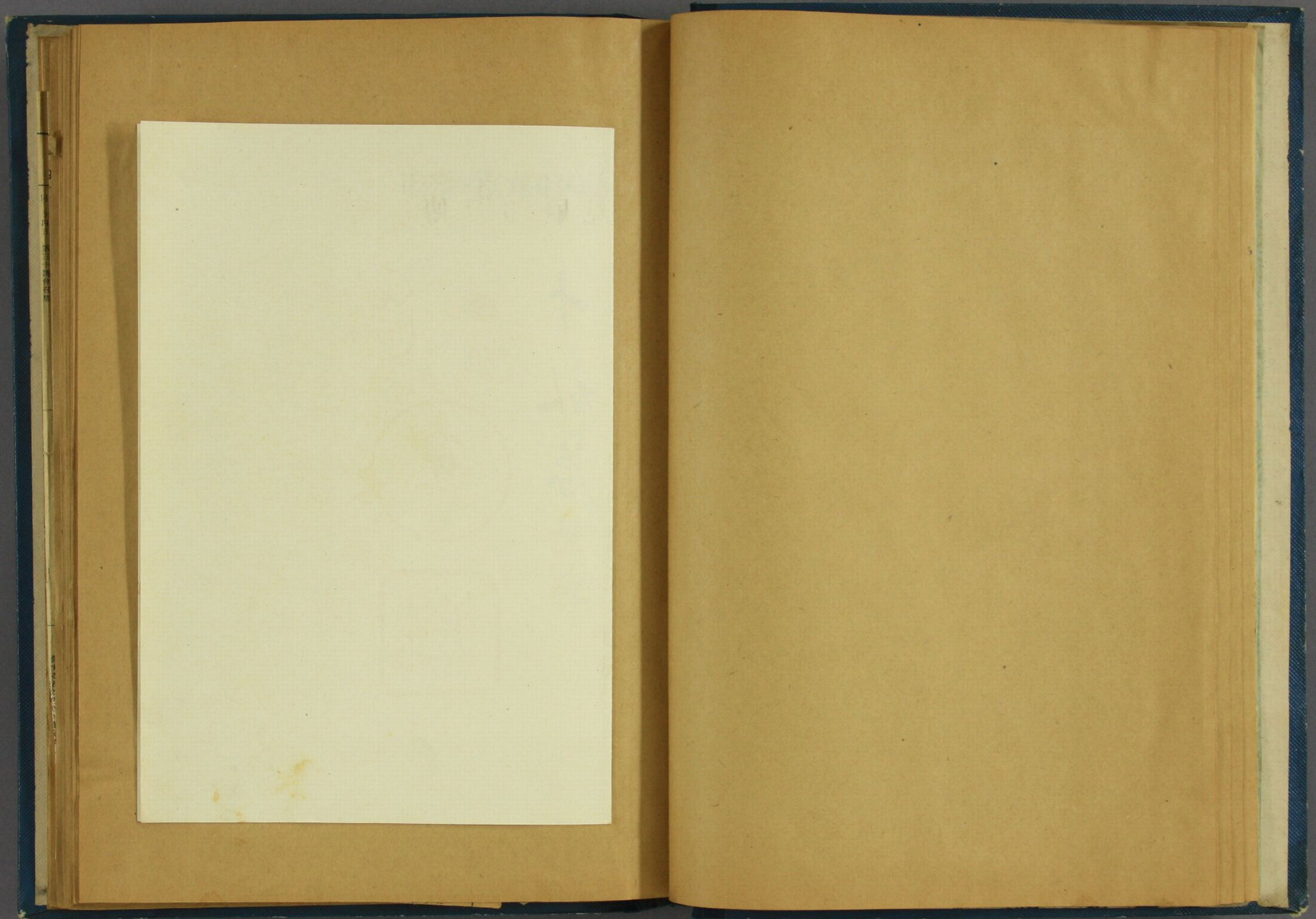
最初自分の目に觸れた一葉の日記の或る頁から許婚の事は見えす濫谷なる坂本が一葉に對し、小説を兎や角評し、戀愛事件の浮説に就て坂本は潔白正直は人間の至寶である。潔白の身にもシミつかば取かへしつくまじと戒め、坂本に説かれて新年に書きたる短冊を寄せ、話次に一葉が自家の眼病を語り出で、濫谷はそれを憂へて醫師に同行をすゝめなどしてゐる。其頃一葉の家庭も不如意で濫谷に對し左の如く語つてゐる。原文のまま其一節を掲げると「濫谷様此次参りたまふ頃には枝豆うらんか新聞の配達なさんか知れ侍らず、其時立寄らせ給ふや、といへば必ず立寄らん、もし不義の榮利にほこり給ふに逢ひなば、斷じて願みはせざるべし」と應酬し、濫谷の身形などに就

き一葉の原文を引けば「身形などはよくもあらねど、金時計も出来たり、髪もはやしぬ、去年判事補に任官して一年半とたぬほどに檢事に昇進して月俸五十圓なりといふ。我十四の時この人十九成けん」など懐舊の情も漏れてゐる。此日記は一葉二十一歳八月の「しのぶぐさ」の一節で、許された紙に制限があるので、全文の鈔出が出来ないのは遺憾である。自分の最初觸れた記事は以上の如きものであつたが、どこぞに許婚の事がありやしないかと、更らに頁を繰ると果して、ありありと書かれてあつた。原文は長いので全部引き兼ねるが、一葉は確かに濫谷と許婚の間柄であつて、濫谷もこれを諾したるに仲人の取計らひがあしかりしか、一葉の母は怒つて破談にした。其の原因は確と分らねど「原文にあやしく利息にかゝりたることいひ出て来るに母君いたく立腹して」とあれば物質的要求などが破談の原因であつたらしい。濫谷は破談の後も交情前と異らず、ある時は昔の契りにかへり結婚をまとめんとしたることさへあると一葉の筆に見えてゐるが、一葉が意地張つて孤獨生活をつけた動機は、此の許婚の破綻に由つたらしくもある。一葉の日記の原文には、

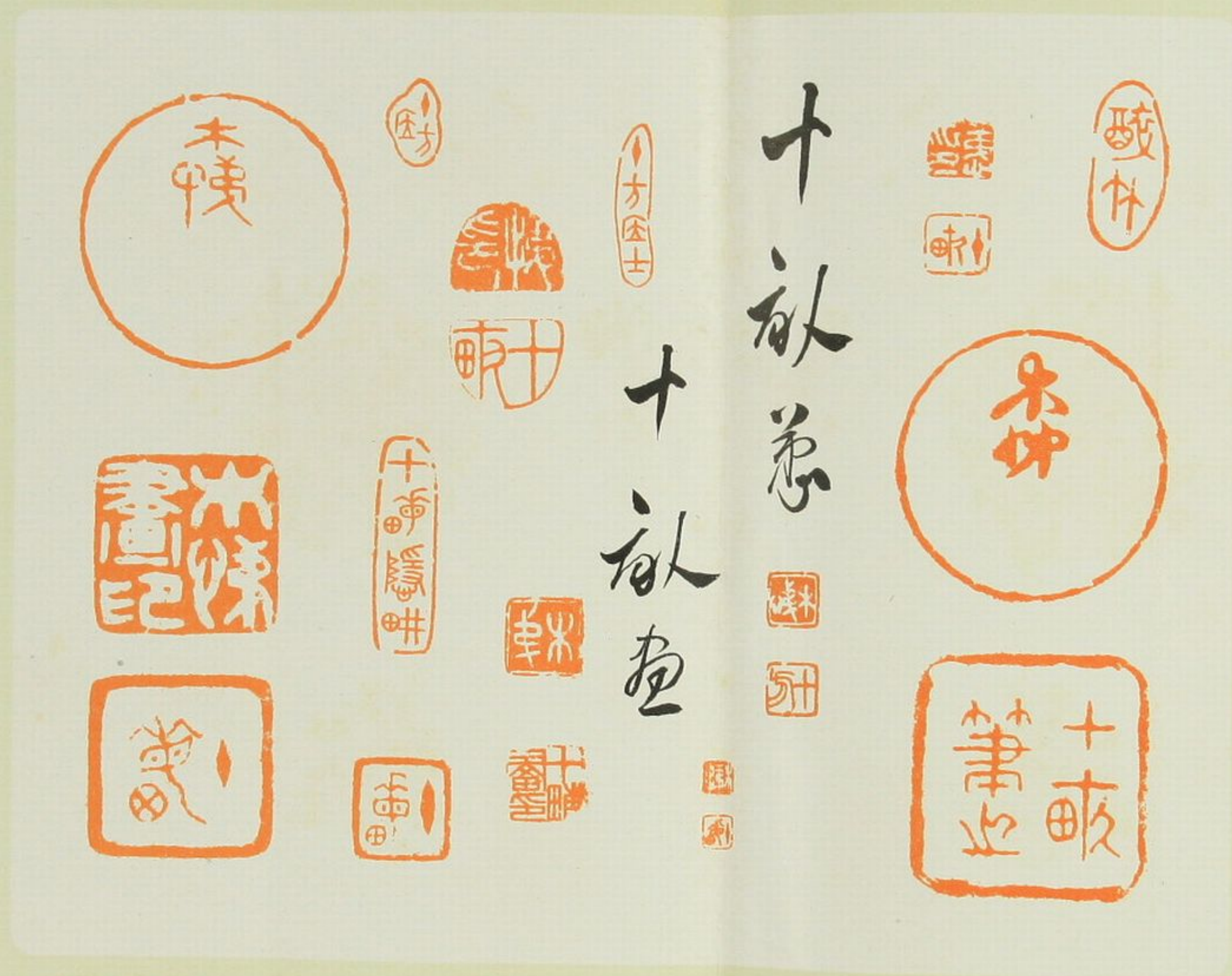
この人に我依らんか母君をはじめ妹も兄も亡き親の名まで辱かしめず家も美事に成立つべきながら、そは一時の榮、もとより富貴を願ふ身ならず、位階何事かあらん、母君に寧處を得せしむるは明治又檀の天才、樋口一葉舊居の跡なり、一葉の地に住みてたけくらべをかく。明治時代之諸泉寺町の面影、永く仁がべし、今町民一葉を慕ひて碑を建つ一葉の靈欣びて、必らずや来り止まらん。

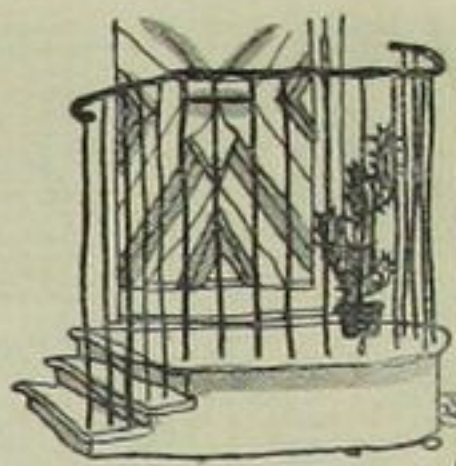
（地番一四四三町寺泉龍院谷下市京東）碑の跡居舊葉一





(シ同トノモノ刷印版色原ハ紙用) 本見刷印款落・譜印





蚊と闘ふ人々 十三年 五月二日

—— パナマにおける成功 ——

安田 徳 太郎

ハバナにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴークスの衛生隊が一生懸命にキューバの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峽に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は掃蕩された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峽の開鑿にアメリカを積極的に後援することを宣言した。フランスのパナマ運河會社の權利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくパナマ共和國が建設され、

共和國は計畫の運河の左右兩岸十里の土地を合衆國に譲渡することによつて、南アメリカ諸國との外交的紛争の危険から永久にのぞかれた。

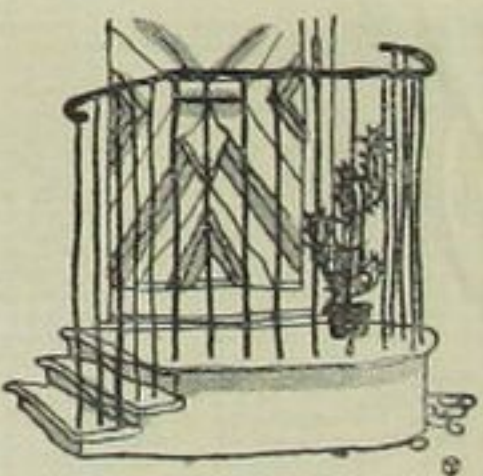
バルボアが一五二三年にパナマ地峽を横断してはじめて太平洋を發見して以來、二つの大洋の水を結ぶことが文明の最大の空想となつた。二つの大きな海洋は僅か四十哩の陸地によつてせかれてゐる。その成功の曉のすばらしい影響、交通に對する、軍事に對する、人類の平和的聯合に對する影響は人間の空想を眩惑させた。しかもヨーロッパ最大の工學的頭腦、スエズ運河の開鑿者レセップスは大西洋と太平洋をつなぐ計畫に二十年の歲月を費して、其結果失敗して世の嘲笑

を浴びて死なねばならなかつた。ヨーロッパが失敗したことにアメリカは成功するだらうか。一九〇一年にアメリカははじめてこの大きな冒険に挑戦し、次の二年間準備は着々進行し、一九〇四年によいよ工事は開始された。

併しアメリカの富、アメリカの工學的技術、アメリカ人の精力をもつてしても、それだけではこの大きな計畫は成功しないと確信してゐる人があつた。この人こそ最近ハバナにおいて黄熱撲滅に成功したドクター・ゴークスである。チャーレズ河やキレブラ山を克服するのは大きな事業であらうが、それ以上に大きな困難はパナマ地峽の蚊であるといふのがゴークスの意見であつた。ゴークスは軍醫總監ステルンベルグに運河建設のための新しい衛生施設の必要を建言した。フランスのパナマ運河工事では熱帯病によつて莫大な人命が失はれたこと、熱帯病で一番重要なのは黄熱とマラリアであること、若しハバナの住民に行つたやうに運河労働者を熱帯病から防衛してやる事が出来るなら、フランス人に起つたやうなあんな莫大な人命の喪失を見ずに、運河開鑿はアメリカ人の手によつて成功するだらうと忠告した。ハバナの風土や地勢はパナマ地峽とは非常に違つてゐるが、ハバナにおいて成功した方法は地峽において實行しても必ず成功するたらうと

忠告した。そして自分がその重任を買つてみようと思つた。

かういふ仕事にゴークスが適任であることは誰にも異議はなかつたので、ゴークスの採用は満場一致で通過した。彼は一九〇二年にワシントンに呼び出されて運河衛生局長の任命を受け、ついでハバナの功績によつて軍醫大佐に昇進した。次の二年間をゴークスはパナマ地峽で待ちうけてゐる衛生問題の研究のために費した。その間に彼はエジプトにおける國際醫學大會にアメリカ陸軍を代表して列席し、その機會にスエズ運河建設における衛生問題をも調査した。併しスエズの經驗からは何の得るところもなかつた。平坦な沙漠に百哩の運河を開鑿することは熱帯の叢林や山嶽を切り抜いて岩石の運河を開鑿するのとはまるで違つた工事であつた。同じやうにスエズの防疫は大した困難に出會さなかつた。工事に動員されたアラビヤ人の農民達はパナマの成功を喰ひとめた黄熱やマラリアになやまされなかつた。數ヶ月間ゴークスはパリに滞在してパナマにおけるフランスの經驗を調査したが何等の收穫もなかつた。フランスの労働者が熱帯病になやまされたことは有名な事實であつたにも拘らず、レセップス會社は用心深くすべての記録的證據を隠蔽した。パリから歸ると早々ゴークスは一九〇四年三月にはじめ



蚊と闘ふ人

—— パナマにおける ——

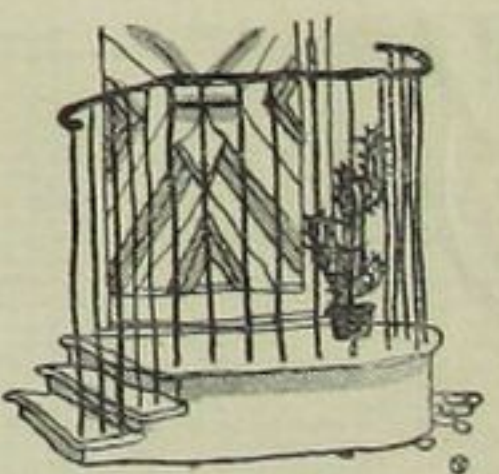
パナマにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴークスの衛生隊が一生懸命にキューバの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峽に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峽の開鑿にアメリカを積極的の後援することを宣言した。フランスのバナマ運河會社の権利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくバナマ共和國が建設され、

共和國は計畫のことによつて永久にのぞかれバルボアが一平洋を發見して大の空想となつよつてせかれて對する、軍事人間の空想を吐願、スエズ運河なぐ計畫に二工

ハバナにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴークスの衛生隊が一生懸命にキューバの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峽に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峽の開鑿にアメリカを積極的の後援することを宣言した。フランスのバナマ運河會社の権利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくバナマ共和國が建設され、

婦長ヒッパルドの僅か七人の人員であつた。工事の技師にくらべて彼等はまるで棄てられたやうな存在であつた。誰も衛生隊などに興味を示さなかつた。アメリカ醫師協會は防疫は最も重要な仕事だとしてゴークスを運河委員會の委員に任命するやうに運動したが首脳部には何の反響も與へなかつた。ゴークスは出發に際していろいろな必要な衛生材料を要求したが、金網や消毒劑さへ拒絶された。併しゴークスは悲觀しなかつた。吾々は必ず黃熱を撲滅しようといふ一隊を激勵した。數ヶ月間仕事はまるで進行しなかつた。衛生隊の人員は僅かに七人であり、まるで上官許りで兵卒の一人もゐない軍隊であつた。ゴークスは何度も首脳部に人間を要求したが、少數の黒ん坊で我慢せよとの返答であつた。衛生局の仕事にはしつかりした教養のある勤勉な人間が必要であることを彼は理解しなかつた。ゴークスがワシントンに協力者を至急よこして呉れと電報を打つた時に、ワシントンからの返電は金がかゝるから將來は郵便を利用してよといふ叱責だけであつた。すべては絶望的であつたので、ゴークスは秋にはいつてわざわざワシントンに歸つて首脳部に陳情して最後の努力を試みたが何の反響もなかつた。首脳部の無知と妨害に對しては何をやつても無駄であつた。ゴークスはこんなことなら一

そら仕事をすて耐力がやつぱりで日を送つた後彼ははじめて夫バナマ運河委張つた姿勢、願ルカーは舊時代しては、或點優買ふ時には交渉家としてはワルフランス會社のや世間をだまし吃驚して、フラの成功を失敗にのすべての政策削るのが彼無もつと厄介なカーはリードのつた。そんな里



蚊と闘ふ人

— パナマにおけ

ハバナにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴークスの衛生隊が一生懸命にキ。パの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峡に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峡の開鑿にアメリカを積極的に後援することを宣言した。フランスのパナマ運河會社の権利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくパナマ共和國が建設され、

共和國は
ることに
永久にの
バルボ
平洋を發
大の空想
よつてせ
に對する
人間の空
願、スマ
なく計畫

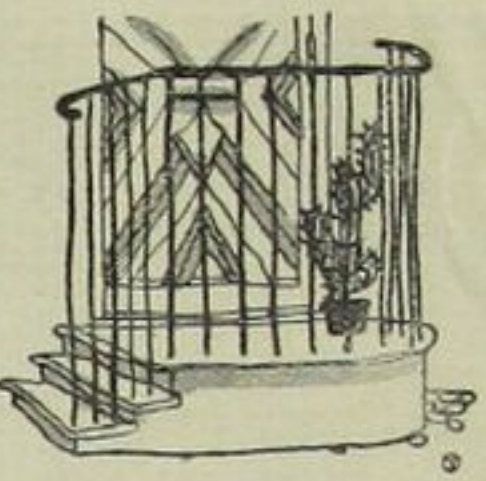
者に面接した。それから數日間大統領自ら朝早くから夜遅くまでどしや降り續きの中を歩きまはつて工事現場を視察した。かういふ視察にゴークスはいつでもお伴を命ぜられた。第三日にコロン病院を視察し、いよいよ合衆國に歸る事になつた。大統領は波止場に押しかけた運河労働者一場の激動演説をやつた。群集は興奮し熱狂的な拍手をおくつた。大統領は出發にあつて突然立ちどまつて、「ドクター・ゴークスは君はみませんか、私はゴークス君に挨拶したい」といつた。ゴークス夫妻が近づいた時にローズヴェルトは心からゴークスに丁寧な挨拶をした。それから數ヶ月後にゴークスは運河委員に任命された。

一九〇八年にスチーヴンス技師長が辭任をしたため組織に大改革が行はれ運河委員会は専ら陸軍でかためることになり、ゴークス中佐が委員長になつた。ゴークスがパナマ地峡に君臨して以來凡ては軍隊的規律で強行された。併しゴークスも衛生局の仕事には理解がなかつた。ゴークスがあまりに金を使ひすぎ、あまりに澤山の人間を使用すると非難した。衛生局は一年に三十五萬ドルの豫算をとつた。かういふ非難にゴークスはいつでも反對して「衛生の仕事はパナマ運河工事の礎であり、大局から見ると三十五萬ドルは些細な費

用である
を殺すた
ゐるとこ
一君のか
いと笑
ゴーク
リアの方
熱以上に
者は何回
のアノフ
てゐた。
へも卵を
沼澤に卵
空にし、
するため
平坦にし
かつた。
入して來
宅を好ん
つたが、

一 數人、無禮者や若者、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一 數人、無禮者や若者、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



蚊と闘ふ人々

十三年

五月二日

—— パナマにおける成功 ——

安田徳太郎

ハバナにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴーンガスの衛生隊が一生懸命にキュー

パの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峽に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峽の開鑿にアメリカを積極的に後援することを宣言した。フランスのパナマ運河會社の権利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくパナマ共和國が建設され、

共和國は計畫の運河の左右兩岸十里の土地を合衆國に譲渡することによつて、南アメリカ諸國との外交的紛争の危険から永久にのぞかれた。

バルボアが一五二三年にパナマ地峽を横断してはじめて太平洋を發見して以來、二つの大洋の水を結ぶことが文明の最大の空想となつた。二つの大きな海洋は僅か四十哩の陸地によつてせかれてゐる。その成功の曉のすばらしい影響、交通に對する、軍事に對する、人類の平和的聯合に對する影響は人間の空想を眩惑させた。しかもヨーロッパ最大の工學的頭腦、スエズ運河の開鑿者レセップスは、大西洋と太平洋をつなぐ計畫に二十年の歳月を費して、其結果失敗して世の嘲笑

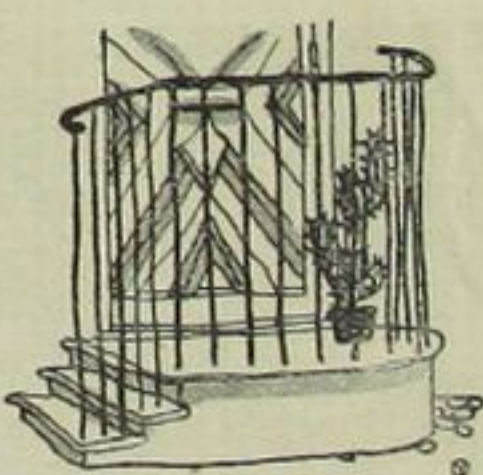
者に面接した。それから數日間大統領自ら朝早くから夜遅くまでどしどし降り續きの中を歩きまはつて工事現場を視察した。かういふ視察にゴーンガスはいつでもお伴を命ぜられた。第三日にコロン病院を視察し、いよいよ合衆國に歸る事になつた。大統領は波止場に押しかけた運河労働者に一場の激動演説をやつた。群衆は興奮し熱狂的な拍手をおこつた。大統領は出發にあつて突然立ちどまつて、「ドクター・ゴーンガス君はみませんか、私はゴーンガス君に挨拶したい」といつた。ゴーンガスの妻が近づいた時にローズヴェルトは心からゴーンガスに丁寧な挨拶をした。それから數ヶ月後にゴーンガスは運河委員に任命された。

一九〇八年にスチーヴ・スズ技師長が辭任をしたため組織に大改革が行はれ運河委員会は専ら陸軍でかためることになり、ゴーンガスの中佐が委員長になつた。ゴーンガスの中佐は地峽に君臨して以來凡ては軍隊的規律で強行された。併しゴーンガスの衛生局の仕事には理解がなかつた。ゴーンガスがあまりに金を使ひすぎ、あまりに澤山の人間を使用すると非難した。衛生局は一年に三十五萬ドルの豫算をとつた。かういふ非難にゴーンガスはいつでも反對して「衛生の仕事はパナマ運河工事の礎であり、大局から見れば三十五萬ドルは些細な費

用である」と主張した。或日ゴーンガスの君が蚊を殺すために合衆國政府は蚊一匹あたり十ドルの金を使つてゐるとこぼした時に、ゴーンガスは笑つてこの十ドルの蚊が萬一君のからだを刺せばどうなるか、國家に及ぼす損失は大きいよと笑つた。

ゴーンガスの君がパナマに來た頃には黄熱は殆ど全滅し、マリアの方も大體片附きかけてゐた。併しマリアの撲滅は黄熱以上に面倒であつた。マリアは免疫がないので運河労働者は何回となくマリアに感染した。マリアを媒介する蚊のアノプ・レスは、黄熱を媒介する蚊のステゴミアと違つてゐた。マリアの蚊は汚い水の溜つてゐるところにはどこへも卵を生みつけた。人間がゐるゐないに頓着せずには水溜や沼澤に卵を生みつけた。ステゴミアを撲滅するには水壘を空にし、雨桶を監督すればよかつたが、アノプ・レスを撲滅するためには沼澤を排水し、池をうづめ、道路のデコボコを平坦にし、叢林を刈り、コンクリートの溝を作らねばならなかつた。アノプ・レスは主に人間の血を吸ふために人家に侵入して來たが、ステゴミアは自分の居住地として人間の住宅を好んだ。黄熱の蚊と闘ふのは家畜と闘ふやうなものであつたが、マリアの蚊と闘ふのは野獸と闘ふやうなものであ

「ハバナ」
「運河」
「衛生」
「労働者」
「大統領」
「視察」
「演説」
「任命」
「改革」
「非難」
「費用」
「媒介」
「感染」
「撲滅」
「侵入」
「居住地」
「家畜」
「野獸」
「闘ふ」
「やうな」
「ものであ



蚊と闘ふ人

— パナマにおける —

パナマにおける成功は數世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴアガスの衛生隊が一生懸命にキューバの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峽に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峽の開鑿にアメリカを積極的に後援することを宣言した。フランスのパナマ運河會社の権利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくパナマ共和國が建設され、

共和國は計ることによつて永久にのびるバルボアを發大の空想によつて對する人間の空曠、スエなぐ計畫

見つけては水溜りを埋めた。沼や池や湖水や溝をうづめることは出来なかつたが、そのまはりの草叢を刈りとることによつて危険は非常に少くなつた。ボーフラの撲滅は衛生隊の重要な仕事になつた。數百人の隊員があらゆる處を駆けまはつて水面に石油を流して行つた。點滴装置にして水面に二十四時中石油がポトポト落ちるといふ工夫でした。石油車が道路の側の溝に石油をまいて行つた。地帯のどんなところへでも、あやしい場所へは、監督官がホースをむけて石油を撒布した。

ゴアガスは又マラリアの蚊が群つてゐる藪の中にある澤山の蚊の敵を利用することを知つてゐた。小さい魚はボーフラを自分達の食物にしたし、蜘蛛や蜥蜴や蟻は蚊の成蟲を自分達の食物とした。この目的にゴアガスはこの種の小さい動物を澤山飼養した。ミノアやその他の小魚を澤山飼養して、それらを澤山池や河に放したが、かういふ小魚はみるみるボーフラを食ひ盡した。衛生隊は蚊を殺すために一日中斬けまはり、蚊のたかつてゐる壁や暗い場所に蜘蛛や蟻を放つた。地峽にゐる小さい蜥蜴はこの目的で保護されて非常に繁殖して行つた。

以上の活動はマラリア撲滅にすばらしい効果をあげた。後

年マレレ半がパナマを界におけるは運河労働ントに達した。スの名を不ガスの名聲スは運河でもう一つた。黒人は肺炎には労働者は白して行つた中雨びたし、まゝであつた。びしよ濡れた肺炎の蔓延小屋に難民染した。里

飛んた。ゴアガスの衛生隊は、そのまはりの草叢を刈りとることによつて危険は非常に少くなつた。ボーフラの撲滅は衛生隊の重要な仕事になつた。數百人の隊員があらゆる處を駆けまはつて水面に石油を流して行つた。點滴装置にして水面に二十四時中石油がポトポト落ちるといふ工夫でした。石油車が道路の側の溝に石油をまいて行つた。地帯のどんなところへでも、あやしい場所へは、監督官がホースをむけて石油を撒布した。

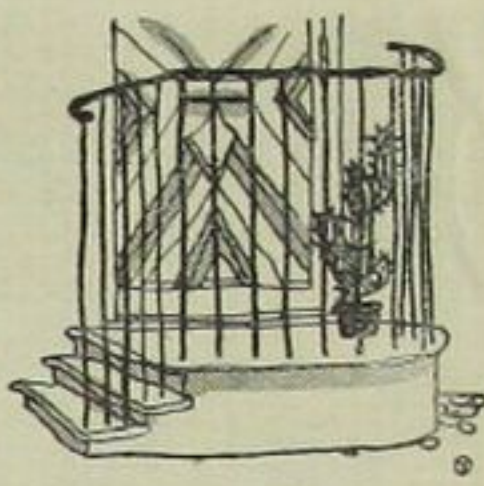
ゴアガスは又マラリアの蚊が群つてゐる藪の中にある澤山の蚊の敵を利用することを知つてゐた。小さい魚はボーフラを自分達の食物にしたし、蜘蛛や蜥蜴や蟻は蚊の成蟲を自分達の食物とした。この目的にゴアガスはこの種の小さい動物を澤山飼養した。ミノアやその他の小魚を澤山飼養して、それらを澤山池や河に放したが、かういふ小魚はみるみるボーフラを食ひ盡した。衛生隊は蚊を殺すために一日中斬けまはり、蚊のたかつてゐる壁や暗い場所に蜘蛛や蟻を放つた。地峽にゐる小さい蜥蜴はこの目的で保護されて非常に繁殖して行つた。

以上の活動はマラリア撲滅にすばらしい効果をあげた。後

つて場所を、ゴアガスの衛生隊は、そのまはりの草叢を刈りとることによつて危険は非常に少くなつた。ボーフラの撲滅は衛生隊の重要な仕事になつた。數百人の隊員があらゆる處を駆けまはつて水面に石油を流して行つた。點滴装置にして水面に二十四時中石油がポトポト落ちるといふ工夫でした。石油車が道路の側の溝に石油をまいて行つた。地帯のどんなところへでも、あやしい場所へは、監督官がホースをむけて石油を撒布した。

ゴアガスは又マラリアの蚊が群つてゐる藪の中にある澤山の蚊の敵を利用することを知つてゐた。小さい魚はボーフラを自分達の食物にしたし、蜘蛛や蜥蜴や蟻は蚊の成蟲を自分達の食物とした。この目的にゴアガスはこの種の小さい動物を澤山飼養した。ミノアやその他の小魚を澤山飼養して、それらを澤山池や河に放したが、かういふ小魚はみるみるボーフラを食ひ盡した。衛生隊は蚊を殺すために一日中斬けまはり、蚊のたかつてゐる壁や暗い場所に蜘蛛や蟻を放つた。地峽にゐる小さい蜥蜴はこの目的で保護されて非常に繁殖して行つた。

以上の活動はマラリア撲滅にすばらしい効果をあげた。後



蚊と闘ふ人々

十三年 五月

—— パナマにおける成功 ——

安田徳太郎

ハバナにおける成功は数世紀にわたつて世界をなやました世界の謎を解決した。ゴークスの衛生隊が一生懸命にキューバの町を清掃してゐる間に、アメリカ合衆國の人々の關心はパナマ地峡に集中されてゐた。四百年間にわたつて運河開鑿を妨げたすべての困難——外交的、財政的、政治的、技術的のすべての困難は一掃された。ローズヴェルト大統領はこれらの困難を克服した。イギリスとの特別な協定によつて、イギリスはパナマ地峡の開鑿にアメリカを積極的に後援することを宣言した。フランスのパナマ運河會社の權利は四千萬ドルでアメリカに譲られた。新しくパナマ共和國が建設され、

共和国は計畫の運河の左右兩岸十里の土地を合衆國に譲渡することによつて、南アメリカ諸國との外交的紛争の危険から永久にのぞかれた。

バルボアが一五二三年にパナマ地峡を横断してはじめて太平洋を發見して以來、二つの大洋の水を結ぶことが文明の最大の空想となつた。二つの大きな海洋は僅か四十哩の陸地によつてせかれてゐる。その成功の曉のすばらしい影響、交通に對する、軍事に對する、人類の平和的聯合に對する影響は人間の空想を眩惑させた。しかもヨーロッパ最大の工學的頭腦、スエズ運河の開鑿者レセップスは、大西洋と太平洋をつなぐ計畫に二十年の歳月を費して、其結果失敗して世の嘲笑

見つけては水溜りを埋めた。沼や池や湖水や溝をうづめることは出来なかつたが、そのまはりの草叢を刈り取ることによつて危険は非常に少くなつた。ボーフラの撲滅は衛生隊の重要な仕事になつた。數百人の隊員があちこちを駆けまはつて水面に石油を流して行つた。点滴装置にして水面に二十四時中石油がポトポト落ちるといふ工夫でした。石油車が道路の側の溝に石油をまいて行つた。地帯のどんなところへでも、あやしい場所へは、監督官がホースをむけて石油を散布した。

ゴークスは又マリアアの蚊が群つてゐる藪の中にある澤山の蚊の敵を利用することを知つてゐた。小さい魚はボーフラを自分達の食物にしたし、蜘蛛や蜚蠊や蟻は蚊の成蟲を自分達の食物とした。この目的にゴークスはこの種の小さい動物を澤山飼養した。ミノアやその他の小魚を澤山飼養して、それらを澤山池や河に放したが、かういふ小魚はみるみるボーフラを食ひ盡した。衛生隊は蚊を殺すために一日中駆けまはり、蚊のたかつてゐる壁や暗い場所に蜘蛛や蟻を放つた。地峡にゐる小さい蜚蠊はこの目的で保護されて非常に繁殖して行つた。

以上の活動はマリアア撲滅にすばらしい効果をあげた。後

年マレー半島のマリアア撲滅を指導したドクター・ワトソンがパナマを訪問した時にゴークスの仕事に驚歎してこれは世界における最大の衛生學的功績だと賞讃した。一九〇六年には運河労働者のうちの毎月のマリアア入院患者は四〇パーセントに達してゐたが、一九一三年には僅かに一〇パーセントになつた。マリアアの撲滅はパナマ運河を不朽にし、ゴークスの名を不朽にした。パナマの工事労働者の間におけるゴークスの名聲はゴークス委員長よりすばしらかつた。ゴークスは運河であり、運河はパナマであつた。

もう一つの問題はアメリカ黒人労働者の肺炎の蔓延であつた。黒人は黄熱には免疫してゐたが、ハンカや天然痘と同じに肺炎には未感染であつた。白人労働者の進出によつて黒人労働者は白人から肺炎を感染してあちこちでみんな全滅して行つた。パナマでは雨期は八月も續いた。黒人は一年中雨びたしになつた。黒人労働者はみんな貧乏で着のみ着のままであつた。彼等は雨中で労働し、夜は工事小屋に歸つてびしょ濡れの着物のまゝで寝てしまふ。かういふ生活状態は肺炎の蔓延に拍車をかけた。大勢の黒人労働者は小さい工事小屋に雑居してゐた。一人が肺炎になると、忽ちみんなに傳染した。黒人労働者の肺炎の流行は西インド地方にまで鳴り

高野切實之筆卷 五 田中親美 一巻 一五〇〇
 費樹和歌集 伏見宮家 一帖 一〇〇〇
 切支丹文書「高槻發見」 巖松堂古典部 一冊 八〇〇
 授決圖多羅義集唐決日連 金澤文庫 一冊 五〇〇
 稿木たねおろし 一茶渡書 信濃教育會 一冊 二四〇
 寛政紀行 同 同好會 一冊 三〇〇
 たびしうの 第二 同 一冊 三〇〇
 句稿消息 第三 同 一冊 三〇〇
 ○齋藤徳元集 笹野盛 一冊 六〇〇
 稿本悲しき玩具石川啄木記 書物民衆社 一帖 二〇〇
 歌校浮巢 長塚節 同 一帖 二〇〇
 寶要抄 遍智院 一冊 三〇〇
 御醍醐天皇宸翰集(十五) 國民精神文 一冊 三〇〇
 唐賀草書孝經 御物 審美書院 一巻 一六〇〇
 風信帖 弘法大師真筆 同 一巻 五〇〇
 頼山陽象壁記 高松宮家藏 一巻 七〇〇
 旅日記飛鳥川 西山宗因筆 審美書院 一冊 六〇〇
 晋王羲之尺牘(御物) 同 一巻 六〇〇
 趙子題烟江疊嶂圖詩 同 一帖 二〇〇

愛 贈 書 誌

道頓堀だより 五月號 大阪市南區道頓堀 カズオ書店
 史料と文獻 四八號 大阪市西區南堀江町一 荒木伊兵衛書店
 文華堂古書月報 四月 京都市中京區寺町通 文華堂書店
 フルホン 四五號 豊島區池袋二 赤春堂書店
 古書目録 133號 大阪市港區辰巳町二丁目 朝倉書店
 白州堂古書月報 七六號 京都市河原町通三條上 白州堂書店
 高知だより 五號 高知市帶屋町二三 平和堂書店
 書誌學 五月號・三〇 神田區神保町三丁目 日本書誌學會
 思想と文學 三卷三冊・三五 小石川區 東洋大學
 古典要目 一三八號 大阪市南區扇町三丁目 鹿田松雲堂
 本 五月號 廣島市新川町竹屋橋西角 文屋書店
 陪 讀 十五輯 大津市膳所錦町 金元書店
 來利屋資料 五月號 小石川區宮下町 きたりや書店

賣物欄廣告彙集「全國古本屋聯合、綜合目錄」の出品を募集しま
 す。同目錄は本誌に添附すると共に別刷として毎號三千部を各方面
 素人購書家に配布してゐます。
 締切 毎月三日 一行八錢 (ゴジツクは十六錢)
 (但し一回二十行以上)
 御申込次第原稿用紙送附 日本古書通信社

富岡鐵齋のこと

時代や書店 菰池 佐一郎

未だ曾てこれほど大きな蔵書家の賣立はあ
るまいと云はれ、將來は知らず恐らく出来高
は日本一とならう事を豫想される富岡鐵齋先
生父子二代に亘る珍種愛玩品の大入れは近來
の大快事として學者好事家の齊しく待たれて
居ることであらう。

帝室技藝員帝國美術院會員正四位鐵齋富岡
百鍊先生の名はあまりにも有名で直入草雲兩
先生と共に三傑と稱せられた南宗畫壇の風雲
児である。八十九歳の高齡を以て逝かれるま
でひたすら讀書に耽られ翁が平素云はれた
「書畫は餘技に過ぎぬ自分の生命は讀書にあ
る」とて一生進書物と首つ引きで過ごされた
と云ふ吾等古本屋仲間と殊に因縁淺からぬ大
恩人、その鐵齋先生とは如何なる人であつた
か？

先生は天保七年即ち大鹽平八郎が大阪で亂
を起した前年春から秋まで雨が降り續いたと
云ふ舊曆の缺乏と暴騰に悩み渡れた大飢饉の

年の暮十二月も半を過ぎた十九日、傾く家運
に生きた色もなく不安と焦燥の中に暗澹たる
明け暮れをかこつて居た家は三條衣綱の法衣商
十一屋傳兵衛の太刀坊として勇ましくも生聲
をあげられた。

富岡家の先祖は播磨赤松の藩士で浪々して
京に出た木綿商となり先祖の一人富岡准百は
有名な道學者石田梅巖の高弟で手島椿庵と共
に師梅巖の思想を繼承して町人道徳の鼓吹に
勉めた爲其門に多くの英才が輩出して後に百
萬長者の名を爲すに至つた者が少なくなつた
と云ふ。然しそれは元祿の頃のこと三條衣
綱にあつた十一屋は代々曹洞宗大本山越前永
平寺の御用達として先には赤壁に門構へ間
口數十間の大家で女中だけでも十七八人を
使つたと云ふ程手廣く商賣であつたが先生の少
青年時代にあつては赤貧洗ふが如きを思へば
まことに感嘆の如しとも云ふべきか。

父傳兵衛の世になつて傳教の義へると共に

は困つて居た、が蓮月の風流は遠近に聞へ彼
女を訪ねて交遊を求める墨客名士の談論を傍
聴し乍ら先生は自分の行くべき道についてい
つも靜に考へて居られた。

斯くて十年を経て安政五年間部詮勝が入洛
して勤王の士を片端から捕縛し、殺戮したこ
とは當時二十三歳血氣盛んな先生の血をどん
なに湧かせた事であらう。翌年長崎に集まる
新思想に憧憬の心を燃やせた先生は久々に蓮
月を訪ね長崎遊學にしばしの別れを告げた、
蓮月も心から喜んで饒けとして、歌一首
もろこしの月の桂のひととも

折りもてかへれ我が家づとに
當時の長崎遊學は並大抵の事ではなかつ
た。奉行は高橋秋帆幕府の命に依つて外國の
知識を求めものに嚴戒の眼を光らしつゝあ
つた。

當時長崎定住人で風流の趣味を解し家刻な
どにも秀れて居た小曾根乾堂の許に旅裝を解
いた先生は僧鐵齋や三浦梧門木下逸雲など所
謂南宗幕末三大畫家と交際する機会が出来
た。南宗接觸の第一歩である。都合で長崎か
ら支那まで出掛けやうとした先生も約半年の
滞在で一先づ京都へ引返さねばならぬ事情と

家運は著しく傾いたが「青表紙」と譯名され
る程の讀書好きな父は近所では知らない事は先
づ十一屋へ行けば判ると迄云はれた人で、人
に情をかける事がすきで通りすがりに見た千
子の鼻汁まで丁寧で通ひつゝ愛嬌の深い人
であつた。その慈父に抱かれたのも東の國
で先生は幼少の頃早くも父を亡くした。兄の
時代となつて夷川邊に移つた先生は父の性格
を其傳受け鐵齋本に親しむことが好きで開
る母に負ふごとく讀み耽つた。母は父とは趣
味も性格もまるで違ひ或時は「餘り本を讀む
と御飯をやらぬ」と叱られ泣く泣く好きな本
を閉めた事も度々では先生は五六歳の頃の
こと、従つて早くから習藝ついで學問を以て
立身する希望に燃へ斷然商道を捨て西八條六
孫王神社の家來となつた、時に八歳。

學問に志した先生は山本藤園に漢籍を、觀
山の阿闍梨聖恩居士に佛學を、更に野口正隆
に國學を學び、後陽明學の講義を春日讀殿守
に聴くに及んで少年既に尊王の大義を深く胸
中に刻んだ。當時賑々たる外館の入國に世は
騒がしく幕府の治世に就いて東角の不平を漏
らす者多くこれ等の消息を聞くにつけ先生の
尊王主義の思想はどんなに昂奮したか。

なつた、短日月ではあつたが得たものは可成
り豊富で此知識を土産に歸落した先生は間も
なく聖徳院村に私塾を開き平素の思想を高唱
し尊王の士と深い交りをつた。田能村竹田
の妻と稱する直人が尊前の藩主にお供して
の道中浪士の襲撃に逢つて身の處置に窮し鐵
齋先生にかまつて貰つたのも丁度この時分
で險惡極まる世態にあつて鐵齋思ひの蓮月を
どんなにはら／＼させたことであつたか。安
政六年十二月五日詩の會への道すがら三條の
邊で物見高い群集に圍まれ路上に置かれた六
挺の軍鶴龍を見た。江戸へ護送される勤王
の士、自分と同じ思想を持ち同じ志で天下の
爲めに働いた人々が見るも哀れな因はれの見
である、はからずも逢つた先生は心から泣い
ていつ迄も遠くなり行くその龍を見送つ
たと云ふ。

間もなく同志頼三岡も梅田雲濱も幕吏の爲
めに軍鶴龍の人となつた、白木綿でうしろ手
に縛られた無惨な姿を見て自ら寫生して殘し
た哀しい思い出の圖は今も富岡家にあると云
ふ。

先生が同志であり乍らよく身を完うしたの
は、つんぼであつたから少年の時の疾病で豊



晩年の鐵齋翁と夫人

先生は十二歳の時即ち弘化四年にあの歌人
にして烈婦なる太田蓮月の許に預けられた
蓮月尼は京都の白川村に隱棲して手づから
陶器を製して之れに自詠の歌を描き置いでい
た(この時蓮月五十七歳)先生は蓮月が焼か
土を取りに近くの山へ往復した、陶土取りか
ら歸ると毎日京の町まで油を買ひにやられ
た。行燈の油も一度に買ひ溜められぬ程生活

して居つた、勿論先生自身は飽く迄同志と共に行動したかつたが同志の方では密議に加へるのに甚だ都合が悪いのでいつの間にか除外されて来た、鐵齋の長壽はつんぼが生んだと云つてよい。

文久元治を経て世は王政維新となり、明治元年岩倉公に隨從して新装の帝都に足を踏み入れた、志士鐵齋の感激や思はれる。官途に就く様との岩倉公の勧めも餘り好ましくなかつたが翌年再び京都へ歸られた。

そして明治四年に先生三十六歳の時春子夫人を迎へられ新生活が開けた、夫人は八百石を領した伊豫松山藩士の娘、郷里に居られた時は四里八丁の道を毎日歸りて劍道の稽古に通つたと云ふ、後久通宮家の奥女中となり學門の先生を探して鐵齋先生の門に入り、介する人があつて結婚された、が新婚の夢圓から予窮乏のどん底に其日の糧を求めねばならず先生も初めは畫かきになる考へたぞ毛頭なかつたが其餘技が多少なりとも米鹽の料となつて畫帖一枚一朱印も今で云へば六錢位割米五把掲げて半折一葉貰つて歸る人もあつて春子夫人の苦勞も並大抵ではなく、夫人も娘時代から男子も深く程だつた薙刀の術を結婚後

間もなく教へて居られた。

夫人はまた訓詁は殊に得意で多感な夫人の心懐は玉のやうな歌になつて表れてゐる、(秀歌多けれど茲に略す)。結婚御幸町に移られた先生は夫人が身重となるに及んで餘りに手狭まを感じ丁度其頃上三本木に空いて居た頼山陽の舊居山紫水明處へ移られた。此時の先生の得意や思ふべし。

間もなく一子謙藏氏を挙げられた、悦びと共に先生の手うちは一層苦しく小供の結び初めに兩親の遺物を仕立直して晴着とした程であつた、此頃の先生は神社復興の熱烈な論者で逢ふ人毎に説き熱心を極めたものでその熱烈なる主張は自然要路の人の耳にも入り折柄漢川神社の神官に缺員のあるを幸出せよとの命令があつた、が赴任して見ると時の宮司と盡く意見が違ひ即日任を辭して京へ歸つた。是は明治八年先生四十歳の時のこと。

翌九年税所施の知遇を受けて和泉の官術大社大鳥神社の大宮司となつた。春子夫人に謙藏氏を伴ない住み馴れた京都の家を引揚つて境内の社務所を假の住家とした先生は神饌を捧げる憂すら無きまで荒れに荒れた神殿に頼つて自力によつて必ず復興する事を神に

誓つた。氏子には祖先崇拜の必要を説き歩き

神社修理の金は自分が道樂に習ひ賣へた繪を神像へ裏鏡を上るつもりで買へたと勧め明治十四年頃には近郷に類のない莊嚴な社となつた。親子三人四年の間血を吐く様な艱難の中に築き上げた記念を謙藏氏子一同に慕はれつゝ名宮司鐵齋先生は京へ歸つた、令兄が病没したから老後の母を養ふ爲め官を辭したので先生の四十七歳の時には誠忠天聰に連し正七位に叙せられた。京に歸つた先生は志を當世に絶つて専ら丹青の道に没頭することとなつた。

自ら心懐を詩に賦して曰

人笑吾書癖。吾耽讀書樂。
恰如南面王。萬卷享天爵。

筆墨場中爲逸民。賣書鬻畫養閑身。
天公賜我眞清福。不列精神列隱倫。

これから先生は古人の所謂「萬卷の書」を讀み萬里の路を行く、只一途に長途の旅へと心は走り先づ道を東海道より陸奥を経て北海に及びアイヌの生活を記録し特に興味を以てされた熊祭りのスケッチは全章を埋めた寫生帖に

より後世に名品を残された。先生の畫事を記すこと餘りに非禮なれば茲に略す。

先生は明治十五年頃から約十年間大和繪の研究に人知れぬ苦心をつまられた由。かくて先生の作畫生活は萬卷の書を讀破し萬里の路を踏破して玲瓏玉の如く澄んで平和な老後を畫筆の中に築しむ境遇となられたが大正八年一人息子の謙藏氏は四十七歳を一期として忽然と逝かれた、人生の悲哀は子に先立たれるより甚しきものはない、先生の悲傷何物に例へられよう。

謙藏氏は明治六年先生極度の窮乏時代三本木の山紫水明處に生れ幼少の頃から父母の感化によつて學問を勵み小學校には殆んど行かず只其頃平安義塾と云ふ處で漢學を伊藤介夫氏に、國學を大阪の敷田年治氏に後に英語は内村鑑三氏に學ばれたが多くは獨學獨行で通された。

長じて同志社、智恵院に教鞭を取り明治四十一年京都帝國大學の講師となつては東洋史と金石學を講じその頃内藤、狩野の兩博士の指導感化に依つて漢籍の力が一層進まれたと云ふ。

晩年は専ら古鏡の研究に没頭し他の道徳を

許さぬ遺蹟の深いものがあつた。氏が古鏡に關する著作は世界の學界に喧傳され佛國の學者オルソー氏の如きも既に彼地に於て謙藏氏の著作を讀んで居つたと云ふ。氏は古書癖があつて古い典籍に對する愛着熱心は實に甚しいものがあつた。

是れは尤も父翁の感化によることも多いが薩摩の人寺田翠南が古書に精通した人で氏は翠南との交遊も淺からず古書鑑定の益を得たやうであつた。

鐵齋、桃華(謙藏氏)兩先生の藏書の豊富なることは恐らく支那日本を通じても相當なものであると言へよう。總て書畫に關する書籍であれば價を論せず購入された。又蘇東坡と同日に生れた故を以て先生は東坡を非常に崇拜され東坡の著書は殆んど盡く集めて居られる。單に書畫に關するもの許りでなく經世經國に關するものも多い。

北門鎖鑰近如何。獨抱杞憂說向誰。
欲試干戈開折策。單身孤劍入蝦夷。

先生が第一次の北海道設は國防について熱心な研究者先輩松浦武四郎氏の感化に負ふところが多い。

先生は文字を大切にされる癖があつて如何なる印刷物でも文字のあるものは決して粗末にしない。古新聞などで物を包むことすら鐵つて絶對に用ひない先生が紙を大切にすること

も並大抵でなく、紙は知識を生むものであると云ふ一種の信仰があるものであつた。女中が手洗水を投げやりに捨てたのを見て先生は、水は樹木を養ふもの故必ず樹木の根に注ぐがよいと懇々と説かれたと云ふが、こうした小さなことにも先生の眞摯な態度が知られるのである。

大正十三年は先生八十有九、春子夫人又七十八、前年米壽萬壽の圖を一時に迎へ然も晩年秋霜烈日の概があつたが悲しくも十二月三十一日午後四時二十分老衰の爲め眠るが如く逝去された。

葬儀は三ヶ日すぎから發喪され、翌年一月八日京都寺町四條南大雲院に喪主嫡孫富岡益太郎氏に依つて行はれた。

(以上中央美術大正十三年四月、五月連載「鐵齋翁生立ちの記」横川毅一氏の文参照)

ひねり本解題 (十八)

農南堂書店 西塚 定一

まへがき

第百號を迎へて本誌も其の眞價と使命を愈々發揮し讀書家のよき「實用讀書雜誌」として、又吾が業界の公正なる報道機關として、號を重ねて来たのは最も欣快とするところ、益々今後の發展を祈つてやまない。擬て本解題も回を重ねる事十八回千遍一律な拙い解題ながら讀者諸氏より連載の激勵を頂き汗顔の至り、家業の多忙に休載を餘儀なくされてゐたが小閑を得て再び筆をとる事になつた。何卒御覽と御叱正を御願ひ申上ます。

編輯 遠東志

稻葉 君山

大正元年前田家刊 五五四頁
跋解題 四十七頁 總布裝
無定價 賣價二十圓位

遠東誌は明代に於ける遠東の地誌なり、通計九卷外に地圖一卷を附せり、始めて此書を

編纂せしは正統八年(西紀一四四三)なり、時の遠東部指揮官事たりし畢恭の序文によれば遠東の史記に關する資料は成祖の水樂中より來訪したるものにて、その成本は既に朝廷に進獻する所なれば、此書は第二次を底本と

遠東志

なし西紀一五三七年前後に亘れる遠東の資料を増加したるものなり。名稱は異れどその實は遠東志第三次刊本といふが妥當なり、此書の解題をなしたる稻葉先生は最後に「吾人ノ本書ニ對シテ更ニ新ナル感想ヲ禁ズル能ハザルハ西南ヨリ起リタル支那ノ國家ノ遠河ノ流域ヲ保持スルヤ極メテ至難ナリシコト

是ナリ支那ノ史家ニ據レバ遠東ヲ收メテ郡縣ヲ置キシモノ漢ト明トノ兩朝アルニ過ギズ(下略)日露戰役に於いて遠東半島を占領し三十有年、今や支那全土に皇軍馬を進めり。

燒津水産會治革史

燒津水産會

大正八年同會刊行 菊判クローヌ

七三〇頁 無定價 賣價十圓位

本邦屈指の優良漁村として東海道中産業上の重きをなす漁村町として全國に冠たる靜岡縣志太郡燒津水産會は明治十七年魚商團體として設立し、吾國水産業の發達に大なる貢獻をなせしが、本書はその事績を敘述したるものにして、漁業史研究の文獻としても又重きをなせるものなり。

燒津水産會治革史

那須國造碑

飯島春敬

碑である。大いに碑を築め、お役目御苦勞、先づはこれまでが私の領分だ。これでトンを渡さう。

この日は朝から悪い空合で、いまも一雨もよほした新緑の湯津上村を、私達は元氣よくハイヤーを飛ばして来た。やがてちよつとした森があつてそこが國造碑のある笠石神社であつた。その碑は、よくある神社なり寺なりの境内の一角に建てられてゐるのではない。粗末とはいへ、笠石神社として祀つてゐるのである。そしてそこには「武運長久何某」と印刷した紙片が、何か尋常ならざる心もちに貼られてあつた。



社内は、人が二三人はいゝ元一、の三字の石面が、凹んである。嶺山老を中心にして、用意の書とを照合しはじめた。この碑について問題となつてゐるところは、永昌元年の年號を用ひてゐる個所である。永昌元年といふのは支那の則天武后の時の年號で日本の持統天皇の朱鳥二年にあたる。永昌元年己丑四月、飛鳥浄御原大宮、那須國造、評督、被賜、歲次庚子年正月二、壬子日辰節、意斯麻呂等立碑銘、國學棟梁、一命之中、重被貳照、一認めに、速見再題、碎骨、

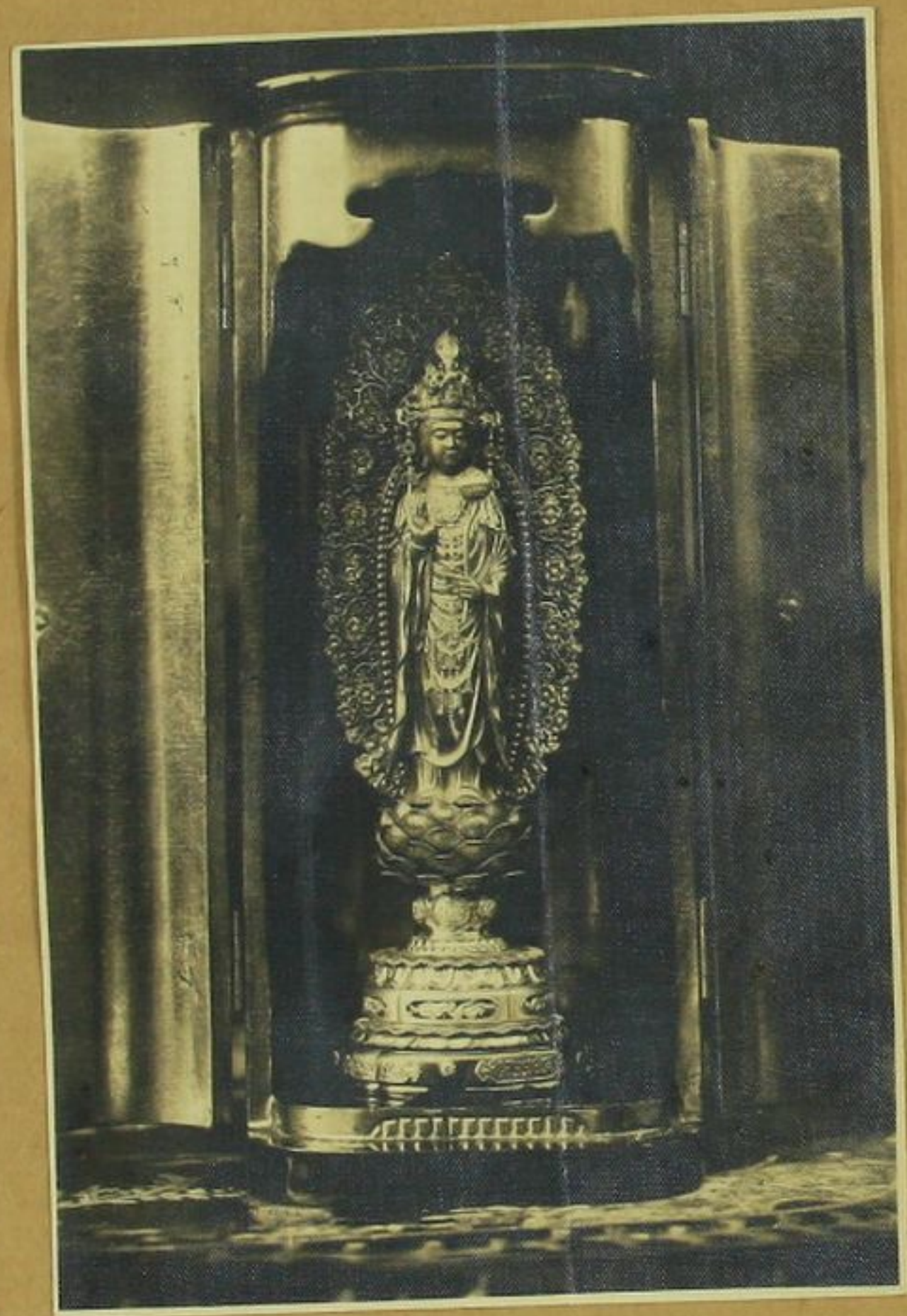


那須國造碑のある笠石神社 若海方舟氏筆
下は國造碑前の一行 香川峰雲氏撮影
飛隨、豈報前恩、是以曾とし、もと朱鳥四年(己丑)子之家、无有嬌子、仲尼なれば三年であるが)とあ、之門、无有罵者、行孝之つたものを、後人が改刻し、子、不改其語、銘夏堯心、たものであるといふ説が行、澄神照乾、六月童子、意はれてゐる(白石、貞幹、香助坤、作徒之大、合言、檜齋、春村等)の如し、を、噓字、故無翼長飛、老根、

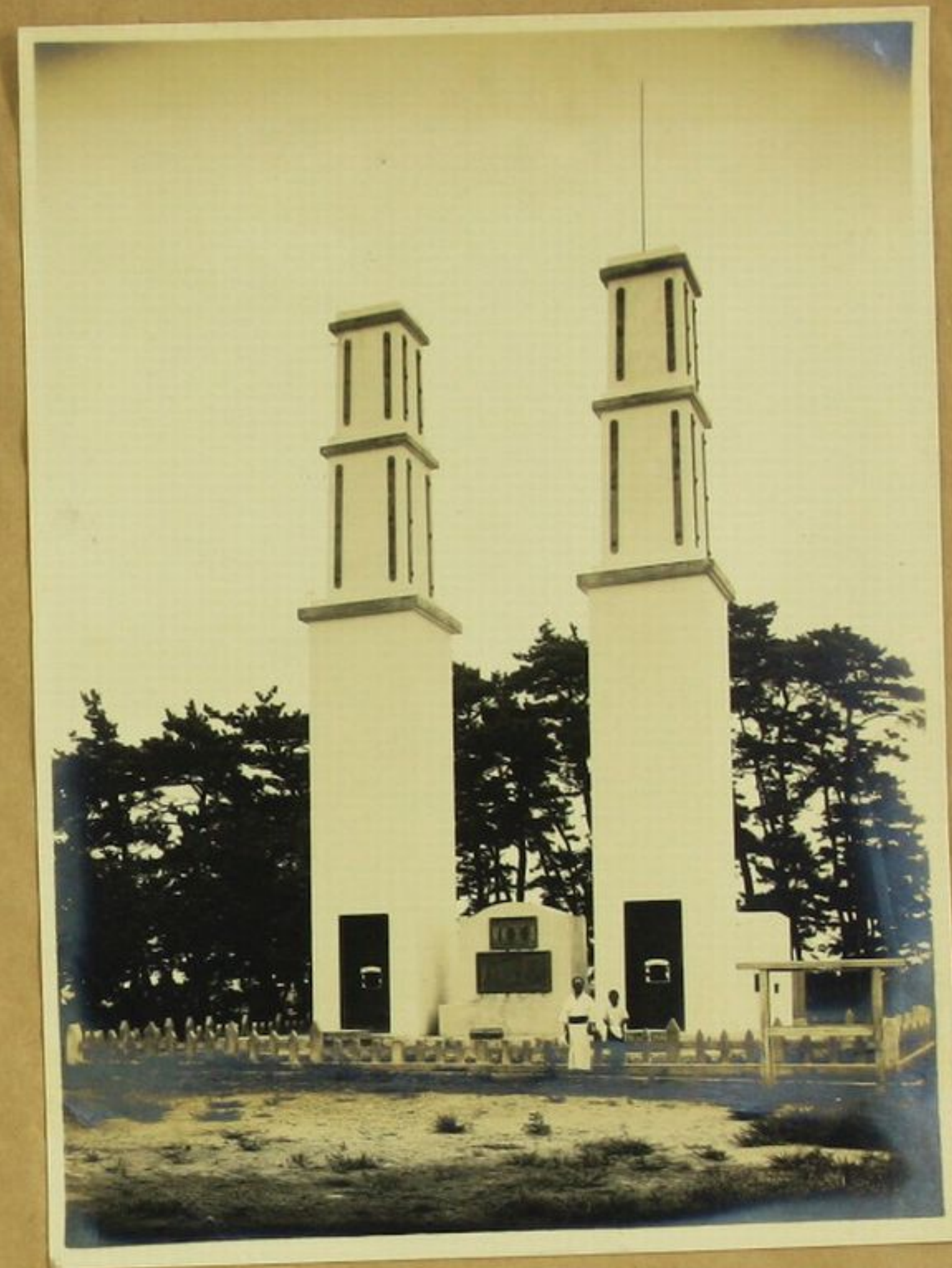
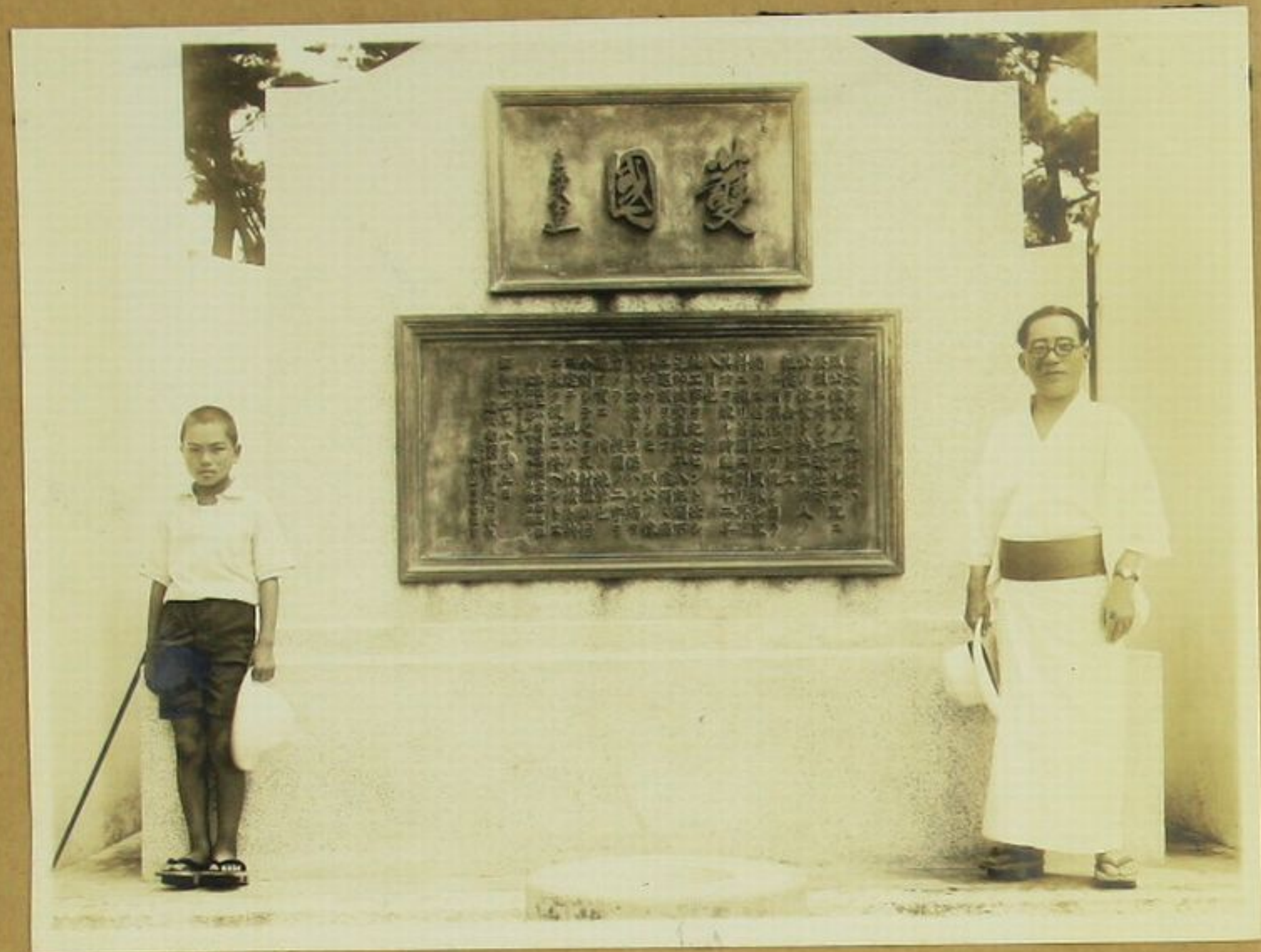
これは當時の碑石の殆どすべてに一行の土も、永昌元年は、石面を全く平らに削られた。尙「碑骨飛隨」のつたものでなく「飛」は「執」を讀めること、多少の凸凹は、赤木氏の測量によると、程度であつて、幅下一尺六寸、幅上一尺三寸、改刻して四十九字、行數八行、文字面縦一、改刻して四十九字、行數八行、文字面縦一、かゝる文字を、碑身の上には笠石がある、筆意型とも、本碑の傳來に就ては種々、同手である、校、四年の秋、僧圓順といふ、齋の古京遺文に、この古碑の事を梅平、改作、今壹觀、村の大金重貞に物語つた、當、作「朱鳥四年、これが水戸義公の耳に入つ、之、字様不類、公那須記を讀み、この碑の、改作、今壹觀、ことを大金に訊ふたと言はれてゐる。とにかくこれ、を耳にした義公は、早速家、臣佐々宗淳に命じて手拓せ、しめられ、元祿四年四月七日、碑石を建て直して、更に、浸蝕を防がれたのである。

尤も現在の碑文は、暴風に破損したのを再建したもので、義公の手になつたものではない。尙又一説には、元祿五年二月、義公がこれを發掘し、墓誌を求めたが得ず、再び發掘品を棺に藏めてこれを封じたと言はれる。然しこれらに就ては、かつて植村和堂氏が本紙に詳述された事がある。この考證はそちらに據つて詳しくは書かぬ。私達の見學もかなり時間が経つたやうである。今度の旅行はこれが主眼である。要もある中で、私達は記念撮影の後、心を遣して自働車に乗つた。森を出るとたんに、向ふから戦國帽履しき兵隊が行進して来た。部隊長は颯爽と馬上にある。又、召集令が出たやうです。あの兵隊さんは、笠石へ御詣りですか。さうでもありませんが、今案内してくれました社の子供さんが戦死したので、御悔みの意味もあるのではあります。小川氏が答へた。私達は、かなり陽気に碑を見て来たのである。窓外の新緑は青々と眼にしみて、痛いやうである。そして日やけした朴訥な社司が思ひ出されて暗然とした。黒羽町につくと私は笠石神社へ、昨晩から今朝までかゝつて、九分九厘まで書上げた「三十六人家集の解説」の原稿を、風呂敷包こして来たことを思ひ出した。どうも私は、心を遣はず間が抜けるのである。原稿の一切の本當の一切が明後日の朝である。そしてこの旅行は明日いづは暗然とした。私は重ね

佛舎院



19



水府五建の及射煙

參議大隈重信
 臺灣蕃地事務
 局長官被
 仰付候事
 明治七年四月五日
 太政官

一
二
2

參議兼大藏卿正四位勲一等大隈重信
 曩ニ臺灣ノ舉アルマ汝重信事務局長官ノ任
 ヲ盡シ日夜電勉能ク之ヲ綜理ス朕其功勞
 ヲ嘉シ仍テ其賞トシテ金幣ヲ賜與ス
 明治十年十二月十四日



一三二

證

一金式十兩也

右者岩倉家要用信傳中藏
 夏三也返海後未未三月
 賞由米差返海七波仍仍件

松山元介
 松井景則
 明治三十二年三月

沙金命申





形人裳衣姿旅
期初代時戸江
藏氏光波江入

新古今の流子、動作の足らざるを、
 ルー・カフ・エ・ト、下、其、ラ、レ、タ
 此、子、カ、フ、下、其、ラ、レ、タ、ハ、年、齡、加、ル、ト、キ、
 大、英、山、民、タ、ル、光、輝、ヲ、表、揚、ス、ル、コ、ト、カ、難、ハ、ナ、イ
 全、ク、幼、時、日、長、ニ、シ、テ、ル、カ、ラ、シ、ク、信、ス、ル、ニ、男、子、ハ、他、人、ノ
 難、ト、シ、テ、其、難、ト、シ、テ、好、ク、自、ラ、匠、ヲ、考、ル、ハ、ナ、ク、
 了、以、目、的、ヲ、達、ス、ル、ニ、作、カ、シ、知、ト、考、ト、シ、
 練、リ、仁、愛、有、リ、ラ、人、ノ、信、セ、ラ、レ、バ、ナ、ラ、タ、流、子、ハ、
 在、人、ニ、尊、信、セ、ル、ノ、徳、ヲ、表、フ、テ、信、ト、シ、
 故、ニ、成、長、ニ、随、テ、大、英、山、ノ、光、輝、ヲ、大、大、に、表、揚、ス、ル、
 全、ク、確、信、ス、ル、カ、ラ、シ、ク、流、子、ノ、益、ヲ、考、ル、カ、ラ、シ、ク、
 信、ト、シ、
 後、ト、シ、

乃木大将真陵明治四十四年七月一日大英園少年軍団後演舌
 草稿之大将ノ精神、吾等最ニ敬慕スルヲ見ル也
 当时随員 陸軍大将 吉田曹三 謹記



同齋越智先生八十壽序

同齋先生。席勲世無仕之資。加以侍從之勞。業已儼然顯為諸大醫先生祭酒者。數十年矣。是歲

享保之辛丑。年寔八十。而正月十有九日丁巳。

為其白晝覺之辰也。則自親戚知友。暨乎門生義故。靡然聚。而謀所以壽

先生。迺君瑞徵余文。余以諸侯之臣。抱病乎陞伏北門之郊。而獲痛筆戶之與鄰。唯丘里之言是媿。則烏能脩辭尊俎之上。以中

先生之驩。雖然。先生者先子之執也。而余又辱君瑞從遊。則又烏能辭。惟夫國家融朗敦龐之化。洋溢乎四海。寧皇乎天地。玉燭所照。和風翔而日雨施者。昭踰百年之久。而民之霑濡沐浴其德也。上焉文恬武熙。莫所事事。下焉鼓腹含哺。于我何有哉。是嘉繇也。時或烟寒之少感。而淫厲札瘥之闕其化。則有諸大醫先生。操其刀圭。齊以湯液。解纒起甕。生死肉骨。以俾斯民克丞烝於壽。以輔

皇上之仁於下焉。則古人等其功烈。亞諸良相之治者。豈虛語哉。是亦嘉繇也。然或為名高所使。或為其楮而奔趨營求之弗還。遽隳戚施。無所不至。以涓其和。以矢其天年者。世豈少哉。亦非天晉其報也。迺急其報於蒙之過也。惟先生不然。先生之先人。起家勝國之際。其所以扶創夷於兵革之餘。訥諸曠蕩之澤。蓋與國家更始焉。遂守其鴻術。仁與世遺。益茂昌具

詩文卷

業。以至

先生之身。亦踰百年之久。是以望高家富。迥
 出儕輩。是豈世之食其伎者倫哉。余又聞之先
 子之言。曰先生者君子人也。亦惟神澹為性。
 孝友為植。樂善博施。忠信以行之。不亦人之
 急。不利人之阨。寧玷其名。孰若濟物。寧喪
 其獲。孰若範我。又蚤聞至人之道。蟬蛻塵垢
 之表。金心不滓。嚼若冰雪。故無赫赫之譽。
 而有恂恂之行者。惟
 先生為爾。是天之所以貺

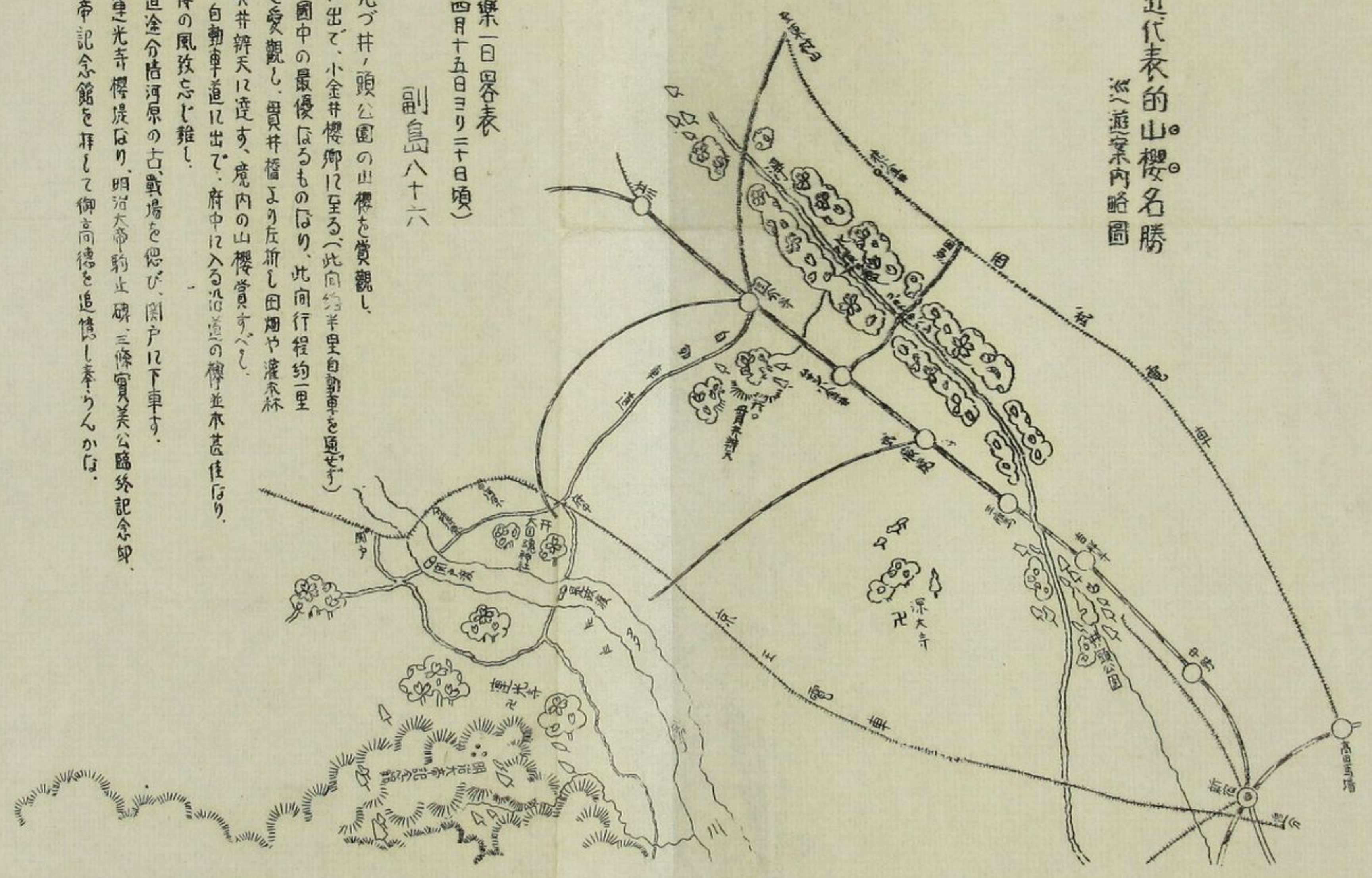
先生。歛數世之仁。厚集諸其身。而
 先生迺薄享之。則
 先生之壽。固其所哉。方今君瑞續與弗怠。克
 家弗殆。行將廓培其仁。以濟奕世之美。夫其
 所以存事
 先生而養其志。豈徒滫瀡甘旨溫清與色已哉。
 則
 先生其無憂乎。惟人憂斯損壽。有子若斯。將
 又奚憂。
 先生之壽。殆未有艾也。八十曰耄。

先生毫而不毫由毫而毫。以至期頤。
先生之壽。豈有艾哉。君瑞於是乎興再拜言曰。
珪雖弗敏。願服膺子之言。以長事。家君焉。
庶以免其罪戾。亦不翅。家君之幸也。物子亦
再拜曰。果爾。
先生之壽。命益莫有艾已。不佞幸甚。則賦南
山有臺之五章。以為
先生壽。

物茂卿 頓首拜

東京附近代表的山櫻名勝
巡遊案内略圖

自井・頭公園 約一里
 至小金井 井
 自小金井 約十丁
 至貫井辨天
 自関・戸 約六丁
 至連光寺



東京近郊山櫻名勝行樂一日畧表
(山櫻前花好季手脚 四月十五日ヨリ二十日頃)

副島八十六

- 一 省線吉祥寺駅以下車、先づ井・頭公園の山櫻を賞観し、櫛林をよぎりて玉川水道に出で、小金井櫻柳に至る(此向約半里自動車を通ず)
- 二 小金井櫻にて飽く迄山櫻を愛観し、貫井橋より左折し田畑や灌木林を辿ること約十丁程にて貫井辨天に達す、境内の山櫻賞観すべし。
- 三 夫れより村道約五丁を經て自動車道に出で、府中に入る。此道は櫻並木甚佳なり。
- 四 府中大國魂神社境内山櫻の風致を賞観す。
- 五 府中より京王線に板し、道途分陸河原の古戰場を經び、関戸以下車す。
- 六 関戸より約六丁すれば即ち連光寺櫻辰辰なり、明治大帝御止碑、三條實美公臨終記念碑、感慨最深し、進んで明治大帝記念館を拜して御高尚徳を追憶し奉らんか。

一圖書

一百八十六冊

別紙目錄ノ通り

右ノ圖書御寄贈相成正ニ領收御厚意奉謝候
永ク本館ニ保存シ閱覽爲致可申候 敬具

昭和十五年三月二日

早稻田大學圖書館



市島謙吉殿

受入係
東海林治芳氏筆蹟

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	號香 別香
																				題
																				名
																				出所
																				香對 號照
																				丁備 數考
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	號香 別香
																				題
																				名
																				出所
																				香對 號照
																				丁備 數考
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	號香 別香
																				題
																				名
																				出所
																				香對 號照
																				丁備 數考

部類 種 皇紀二五 年 昭大 和正 治 第 冊 藏



天洲増田乙四郎氏案著
世界維新文字(萬家族文字)

(實驗上、受業習得半時間)
一、定價 金拾五錢
部、送料 金貳錢

東西の交通は年に月に頻繁に、人文の發達は月に日に複雑す。此世斯時、時勢の要求する聲は、實に統齊一の道ならずや。而して文字の如きは、其尤もなるものに屬す。文字としては、古來東西に、其種類頗る夥しいが、元來その製作たる、何等確たる學術的根據に基かぬので、其字跡や混雜して居て、記憶に困み、學習に難み、又實用に冗漫の嫌あり。是れ豈に時代の進運に添ふものならんや。

聞く近頃北米合衆國に在りては、如何なる言葉、如何なる文字を使つたならば、好いかといふ事が、漸次眞剣に研究されつゝありと。流石は新進氣鋭の米國、其着眼や巧慧、其抱負や遠大。吾人日本民族たる者、豈に時代を遠視し、將來に處するの大計なくして可ならんや。事、實に各國の政教と、民族の衛生と、發榮等に大關係を有す。

此の維新文字たるや、能く學術的事由と、歴史的緣由と、情理並ぶ盡して、最も簡便巧妙に藝術化されたもので、其の各音聲の關係上、共通點と特異點との統齊一せる、形態簡明、組織整然として、學習に、記憶に、最も容易で、實用上に頗る便利である。此の維新文字は、基本文字としての幹文字と、附屬文字たる枝文字とより成立し、幹文字は主として、我が假名とローマ字と、形も音も共通するの便宜を有し、枝文字は音聲の清濁、上下、緩急、等々を表現すべく、之を五段式の便法を以て、幹文字の特定の各部(五段あり)に附する事によりて、巧に音聲の開閉等をも、表現し得らるゝので、一たび此の原理を會得するに於ては、僅か基本文字の十四・五種と、枝文字約十箇計りの適用で、僅に千數百種の各音聲をも表明し得らるゝのである。而して此の便宜は、内外五に各々其國語國字をも學習するにも好都合である。

尙ほ此維新文字の簡便な事は、音聲の上下緩急等の如き、何等符號を要するの煩ひなくして表現し得られ、又孫音(拗音)の如きも簡便至極で、尙又略字や組合文字にも都合が好い事で、其の實例をいへば、假名にて「二三」(ローマ字ならば約その倍數)のものも一字にて事足り、時には漢字音の二字をも、一字にて表現し得らるゝの特長を持つて居て、勞費や紙面等を節約する事が莫大。如此先哲未發と稱せらるゝ此の優秀なる維新文字は、實に著者が犧牲的多年の苦心に成れるもので、著者が嘗て公にせる「大日本改良文字」以來三昔の年代を加へば、約四十年の經營に及ぶ。

右改良文字に就ては、當時その業績を以て、超群的に絶讃したる新聞(萬朝報)ありしが、此維新文字に就ては、學徳並び勝られる狩野亨吉博士は、是れ實に改良文字以上數等のもの。思ふに是れ將來世界文字の上に大革命を起すに到るものと讚賞され、尙ほ他に世評の激稱頗る多いが、之を要約すれば曰く、

○是れ新聞の現出として、精神を放つもの、又世界人文史上に光彩を添ふるもの……

天洲増田日新生考案 ▲壹箇定價金八十八錢 ●送料 金拾貳錢
曆事、計數新聞名等繰出し、ゴム印
○此の曆事等繰出し、ゴム印は、輪轉式に依り、其所要の日常實用の項目を、自由自在に繰出し得らるゝもので、
一、曆事 としては、皇紀(又紀元)の年代、明治、大正及昭和の年數、其他月日、朝夕等より、十干(甲乙等)、十二支(子丑等)。此の干支は分類用にも良し。
二、計數 は、普通最も廣く用ゐらるゝ程度に於ける金額、箇數並に點數。又受(付)や、發(送)としての號數。
三、新聞名 は、東京のを主として、地方に於ける主なもの、其各々の文字が、最も多く使用せらるゝものを採れり。若し能く之を適用するに於ては、全國に於ける各新聞の名前を、九十計りも繰出し得らるゝ。
四、以上の外、新聞の頁數までも、繰出し得らるゝので、新聞の切貼りにも必要である計りでなく、日常書類の發送や、部類や又整理や、尙ほ日時等を明確にする上にも、便利で、大いに手數が省かれもして、能率の効果を著大ならしめる。

新案 拔萃用兼原稿用紙 日新生考案 ●百枚 金拾五錢 ●送料 金貳錢

昭和九年四月廿九日 印刷
同 九年五月五日 發行

著作所
權有

案著者 増田乙四郎
發行所 東京市淀橋區戸塚町二の四四(面影橋附近) 振替貯金口座東京四〇四番
東京市小石川區關口水道町五三
印刷所 朝日堂印刷所
(但組版ハ、波藤生、迅今福天洋堂等の各印刷所)

萬壽 拔萃帖
定價 表紙 金五十錢
並製表紙 金三十五錢



